

# 第1章. わが国および各地域における少子化の現状

ここでは、皆さんに、わが国および地域の少子化の現状を、具体的なデータも示しながら紹介することで、幅広く理解していただきます。

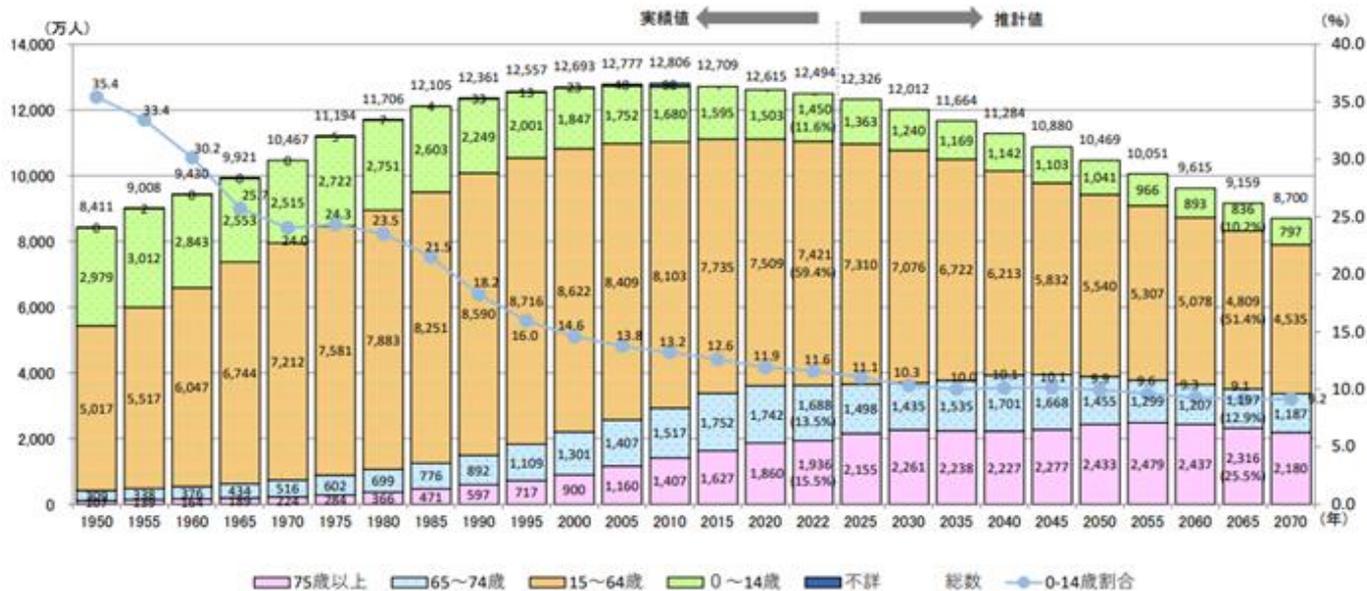
それにより、受講者の皆さんの今後のボランティア活動への動機付けを図ります。

# (1) 日本・本県（市町村）の人口推移

- 日本の人口は2020年に約1.2億人いるが、少子高齢化によって、今後、年々、子ども・若者が減少し、高齢者が増えながら人口が減少していく。
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2070年には8,700万人となる。

## 日本の人口構造

◆ 社会全体の中で、年少人口割合（0-14歳割合）は年々低下。2050年以降、10%未満の水準になる。



資料：2020年までは総務省「国勢調査」（2015、2020年は不詳補完値による。）、2022年は総務省「人口推計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果から作成。

注：1. 2015年及び2020年の年齢階級別人口は不詳補完値によるため、年齢不詳は存在しない。2025年以降の年齢階級別人口は総務省統計局「令和2年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口（参考表）」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、1950～2010年の年少人口割合の算出には分母から年齢不詳を除いている。ただし、1950年及び1955年において割合を算出する際には、下記の注釈における沖縄県の一部の人口を不詳には含めないものとする。

2. 沖縄県の1950年70歳以上の外国人136人（男55人、女81人）及び1955年70歳以上23,328人（男8,090人、女15,238人）は65～74歳、75歳以上の人口から除き、不詳に含めている。

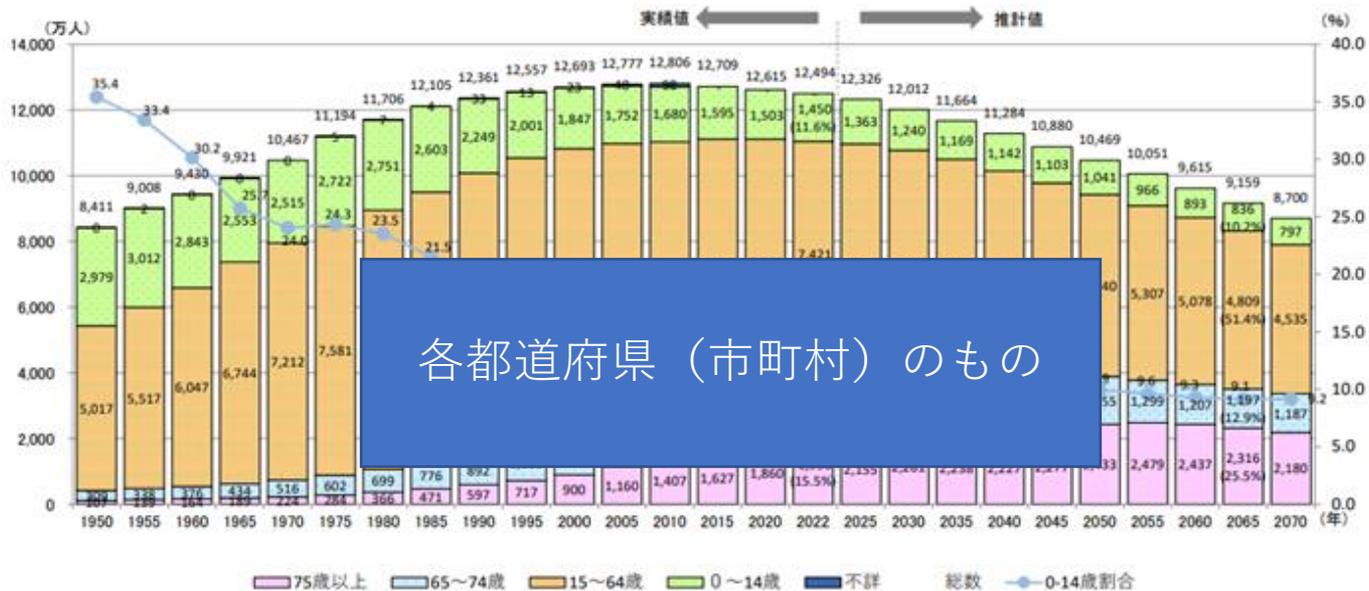
3. 百分率は、小数点第2位を四捨五入して、小数第1位までを表示した。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

# (1) 日本・本県（市町村）の人口推移（●●県）

- 各都道府県（市町村）の状況

## 日本の人口構造

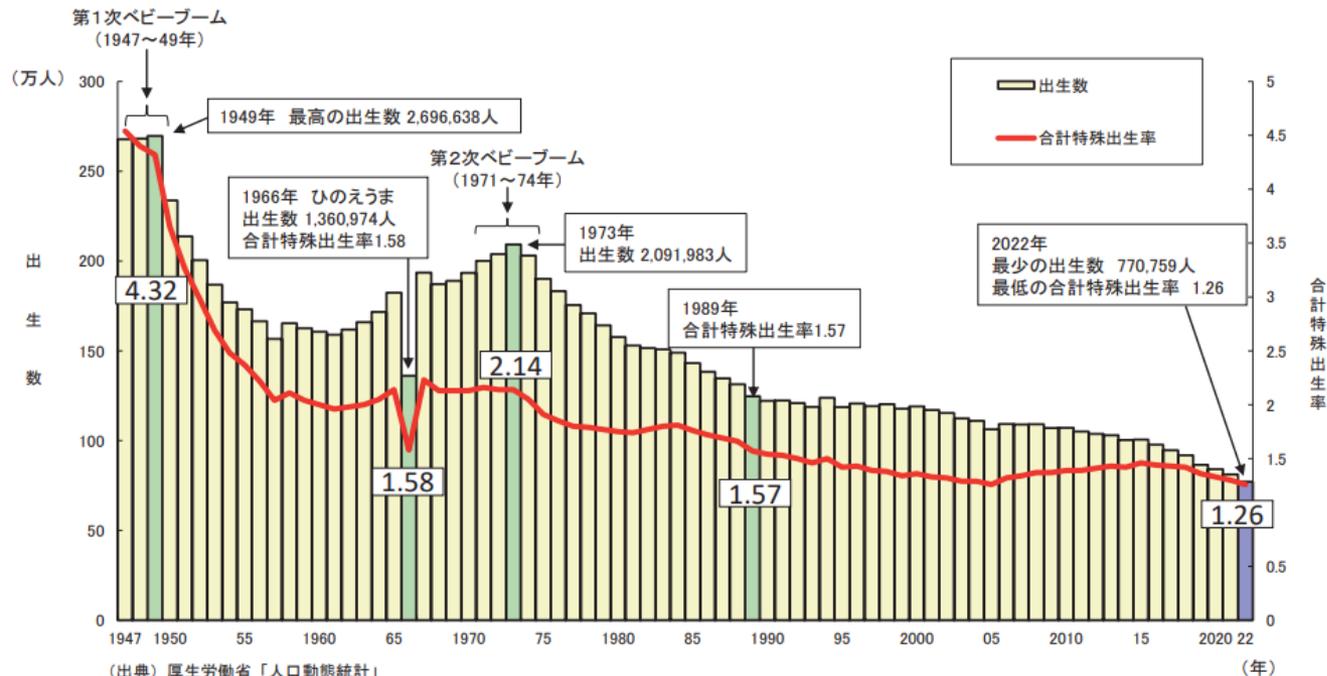
◆ 社会全体の中で、年少人口割合（0-14歳割合）は年々低下。2050年以降、10%未満の水準になる。



資料：2020年までは総務省「国勢調査」（2015、2020年は不詳補完値による。）、2022年は総務省「人口推計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果から作成。  
 注：1. 2015年及び2020年の年齢階級別人口は不詳補完値によるため、年齢不詳は存在しない。2025年以降の年齢階級別人口は総務省統計局「令和2年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口（参考表）」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、1950～2010年の年少人口割合の算出には分母から年齢不詳を除いている。ただし、1950年及び1955年において割合を算出する際には、下記の注釈における沖縄県の一部の人口を不詳には含めないものとする。  
 2. 沖縄県の1950年70歳以上の外国人136人（男55人、女81人）及び1955年70歳以上23,328人（男8,090人、女15,238人）は65～74歳、75歳以上の人口から除き、不詳に含めている。  
 3. 百分率は、小数点第2位を四捨五入して、小数第1位までを表示した。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

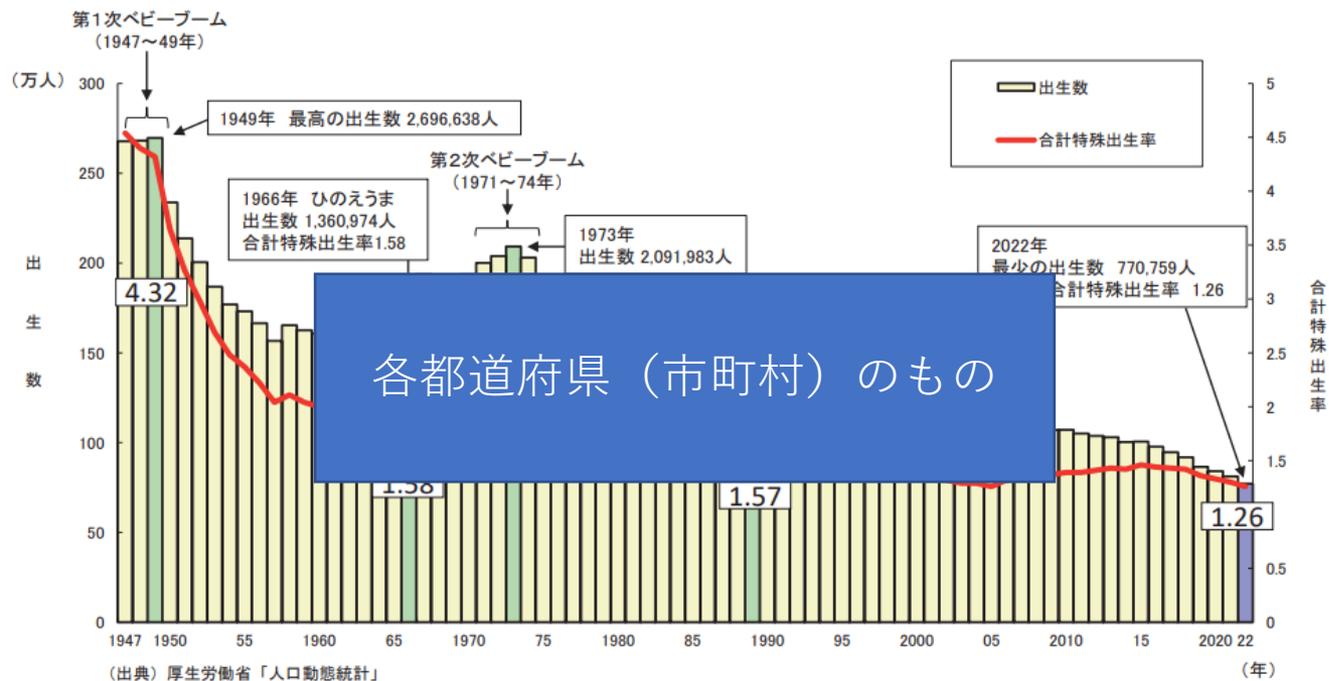
## (2) 出生数、出生率の推移

- 日本の出生数は、戦後すぐは年間で約270万人を超えるこどもが生まれていたが、1973年の第2次ベビーブームを最後に減少傾向が続き、近年は年間80万人を割る状況となっている。
- また、一人の女性が、その年の年齢別（15歳～49歳）の出生率によって一生に生むこども数を割り出した「合計特殊出生率」も長く減少傾向にあり、2005年を底に若干上昇傾向となったが、近年はまた減少傾向となっている。



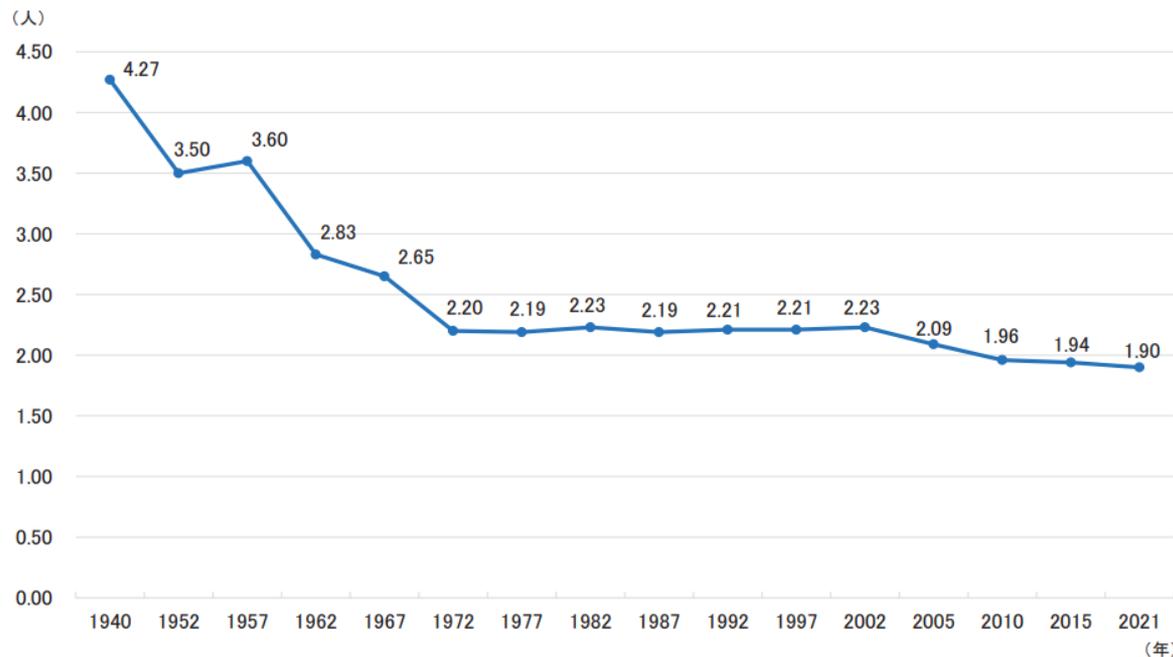
## (2) 出生数、出生率の推移 (●県)

- 各都道府県（市町村）の状況



### (3) 完結出生児数の推移

- こどもがどのくらい生まれるか、というのは、計算上「どのくらいの人が結婚しているか」と「結婚した人にどのくらいこどもが生まれているのか」との掛け算である。
- 「結婚した人にどのくらいこどもが生まれているのか」を「完結出生児数」と呼び、この「完結出生児数」は、1970年頃からずっと2前後で横ばいとなっているが、近年は低下傾向にある。



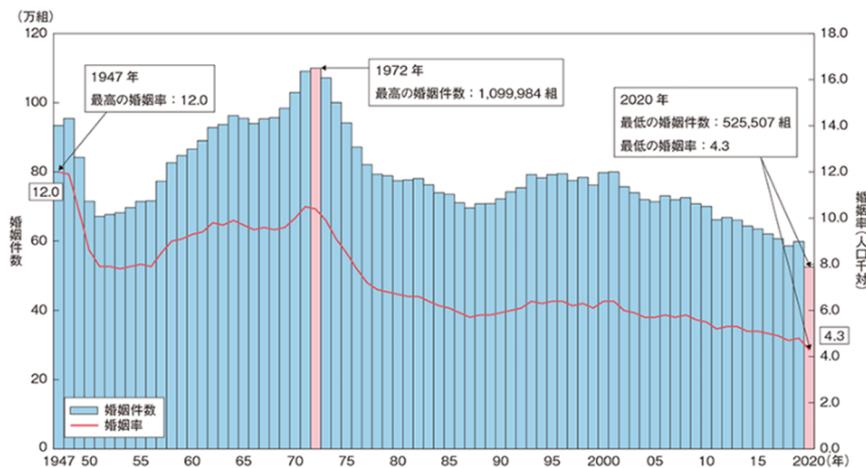
(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」(夫婦調査)を基に作成。

(注)・対象は結婚持続期間15～19年の初婚どうしの夫婦(出生児数不詳を除く。)。各調査の年は調査を実施した年である。

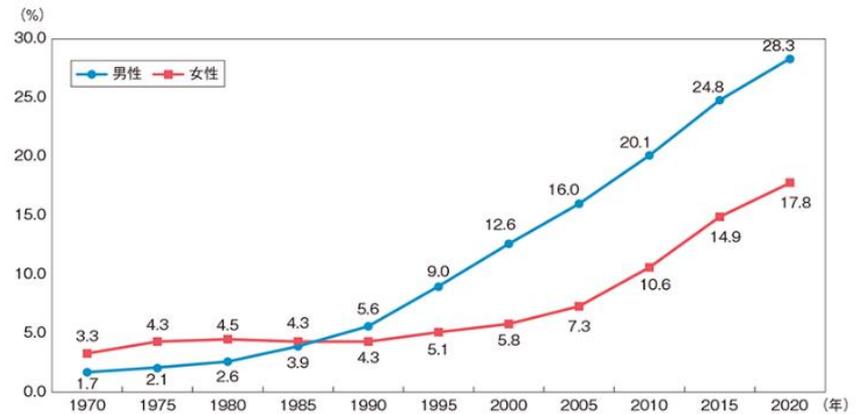
・2015年(第15回調査)以前は妻の調査時年齢50歳未満、2021年(第16回調査)は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。

## (4) 婚姻件数、婚姻率、50歳時未婚率の状況

- 一方、「どのくらいの人結婚しているか」については、婚姻件数は1970年頃には年間100万件を超えていたものの、その後は減少傾向にあり、近年は年間60万件を切っている。
- 50歳まで一度も結婚したことのない未婚の人の割合である「50歳時未婚率」は年々上昇しており、2020年の国勢調査では、男性は4人に一人、女性は6人に一人に上っている。



資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成。



資料：各年の国勢調査に基づく実績値（国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」。(2015年及び2020年は配偶関係不詳補完結果に基づく。)

左：内閣府子ども・子育て本部『令和4年版少子化社会対策白書』「第1-1-8図 婚姻件数及び婚姻率の年次推移」、  
右：内閣府子ども・子育て本部『令和4年版少子化社会対策白書』「第1-1-10図 50歳時の未婚割合の推移と将来推計」

- 各都道府県（市町村）の状況

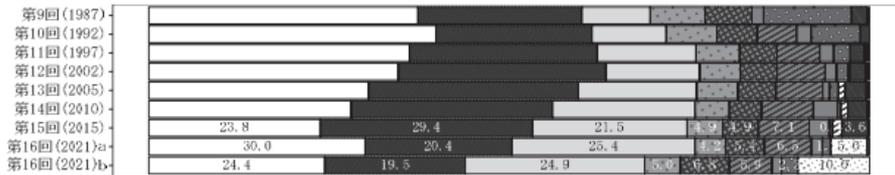


資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成。

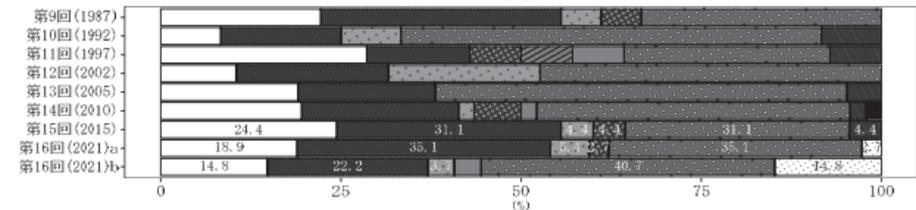
資料：各年の国勢調査に基づく実績値（国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」。(2015年及び2020年は配偶関係不詳補完結果に基づく。)

- 直近3年間で結婚した夫婦が知り合ったきっかけを妻の年齢別にみると、25歳未満では「学校で」が最多、25～34歳では「友人・兄弟姉妹を通じて」が最多、35歳以上では「見合いで」「結婚相談所で」を含む「見合い結婚」が最多であり、知り合い時の年齢が高いほど見合いの場では出会う夫婦が多い。

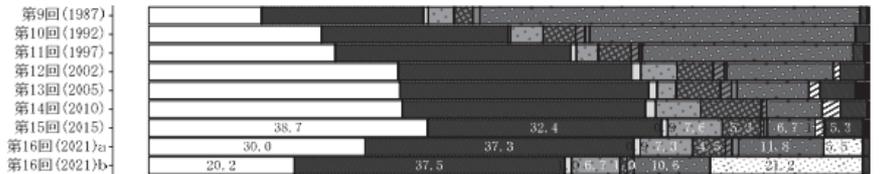
妻の夫と知り合った年齢 25歳未満



35歳以上



25～29歳



30～34歳

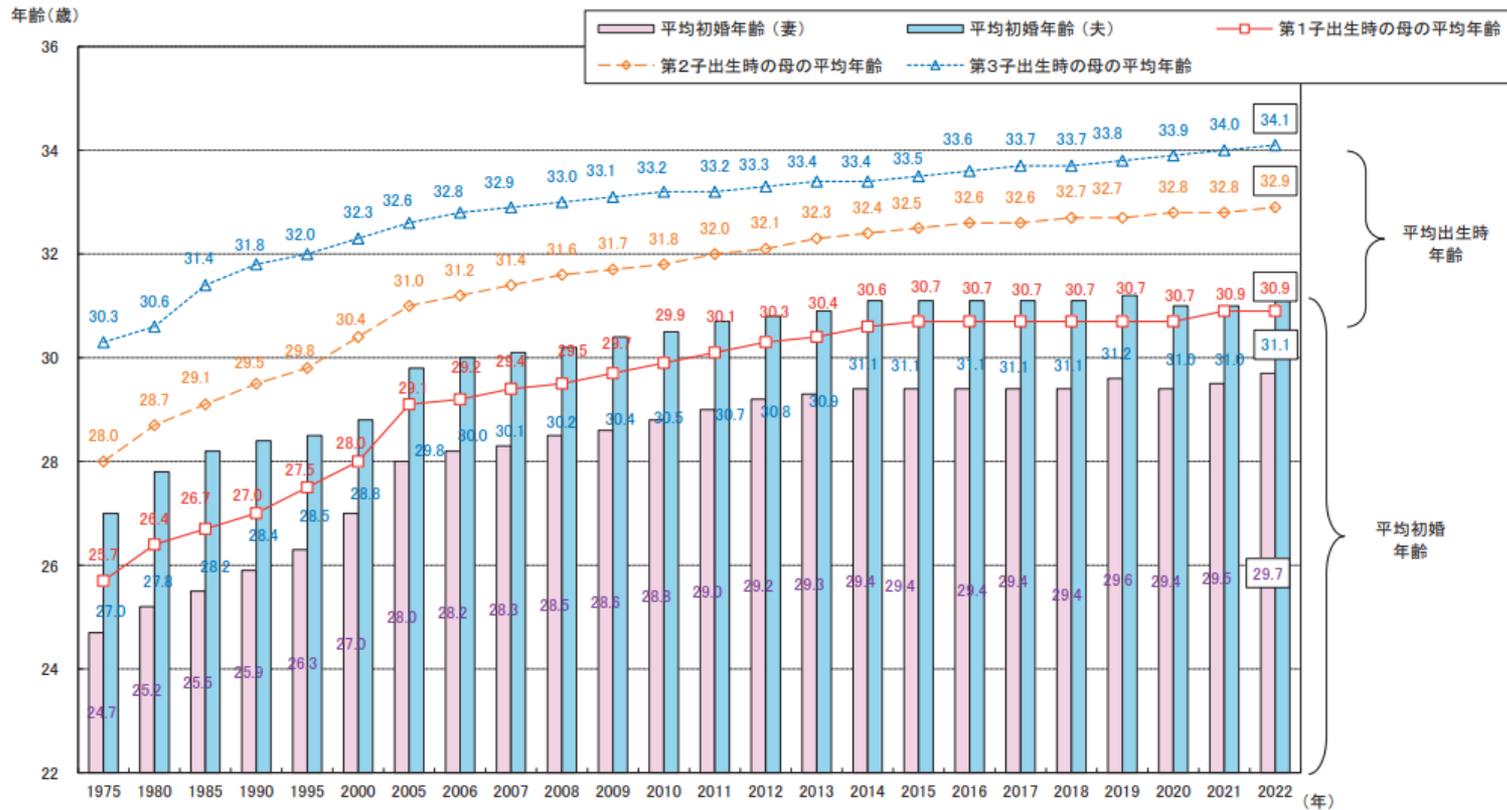


- 職場や仕事で
- 友人・兄弟姉妹を通じて
- 学校で
- 街なかや駅先で
- サークル・クラブ・習いごとで
- アルバイトで
- 幼なじみ・隣人
- 見合い結婚
- メディアを通じて
- ネットで
- その他
- 不詳

注：対象は、第15回以前は結婚持続期間5年未満で妻の調査時年齢50歳未満、第16回は結婚持続期間6年未満で、妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第16回は結婚年月で期間を2つに分けて集計。(2021) a：結婚が2015年7月～2018年6月、(2021) b：結婚が2018年7月～2021年6月。妻の知り合った年齢別の客数数は、第16回(25歳未満466、25～29歳225、30～34歳124、35歳以上45)、第16回(2021)a(25歳未満260、25～29歳110、30～34歳60、35歳以上37)、第16回(2021)b(25歳未満221、25～29歳104、30～34歳41、35歳以上27)。設問や選択肢については図表5-2-2を参照。  
 【報告書図表5-2-4 調査・妻の夫と知り合った年齢別にみた、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合(調査時点から5年以内に結婚した初婚どうしの夫婦(第16回は過去6年間の結婚))】

# (6) 晩婚化の進行？実は… ①

- 近年は、昔と比べて、結婚する時期が遅くなっている（晩婚化）と言われており、平均初婚年齢等が年々上昇している。

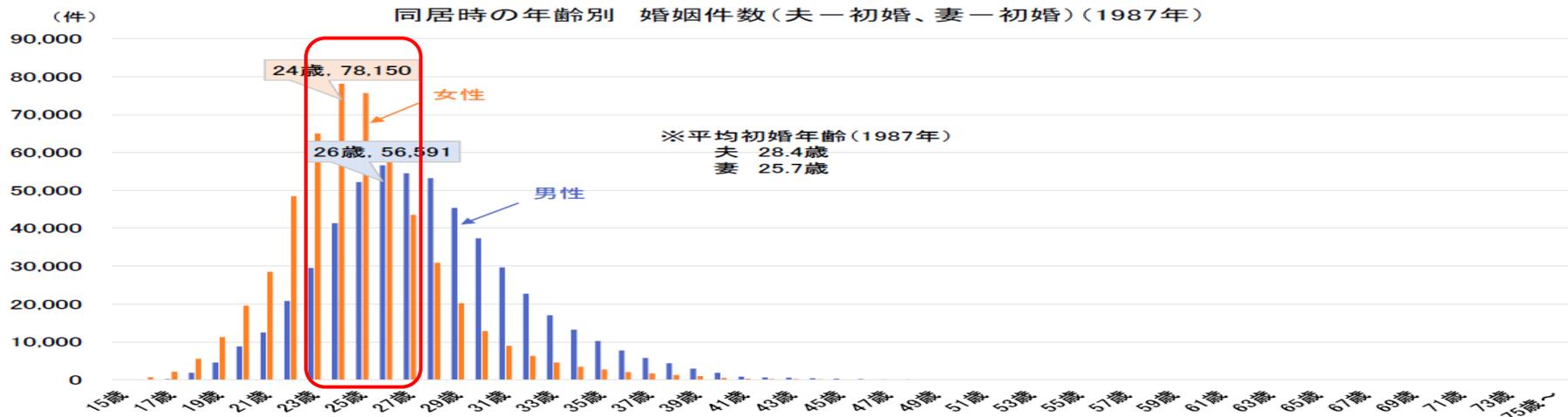
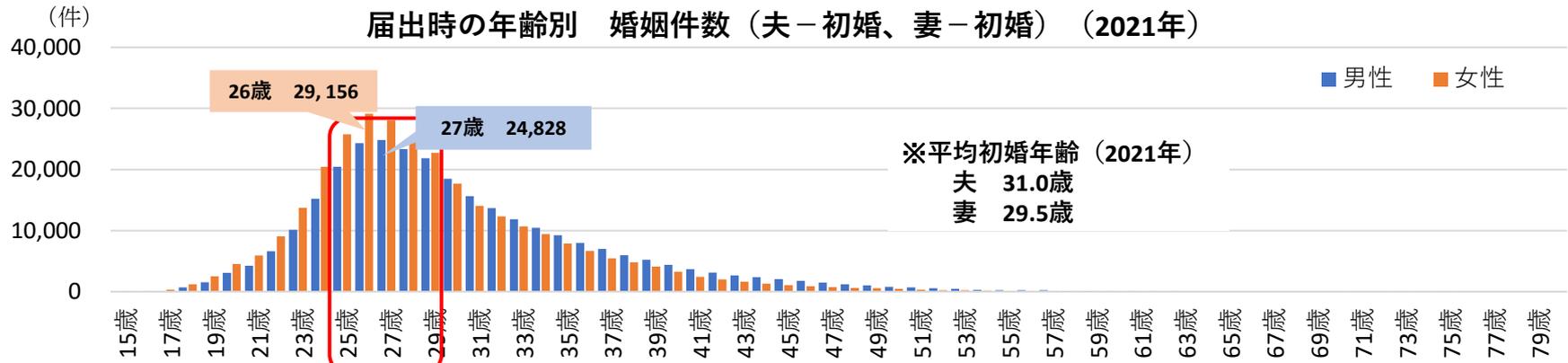


(出典)厚生労働省「人口動態統計」

こども家庭庁『令和4年度 少子化の状況及び少子化への対処施策の概況』  
「図表4 平均初婚年齢と出生順位別出生時の母の平均年齢の推移」

## (6) 晩婚化の進行？実は… ②

- 一方、実は統計上、今も、男性も女性も最も初婚で結婚する人数が多いのは20代後半である。



(出典)厚生労働省「人口動態調査」より男女共同参画局作成。

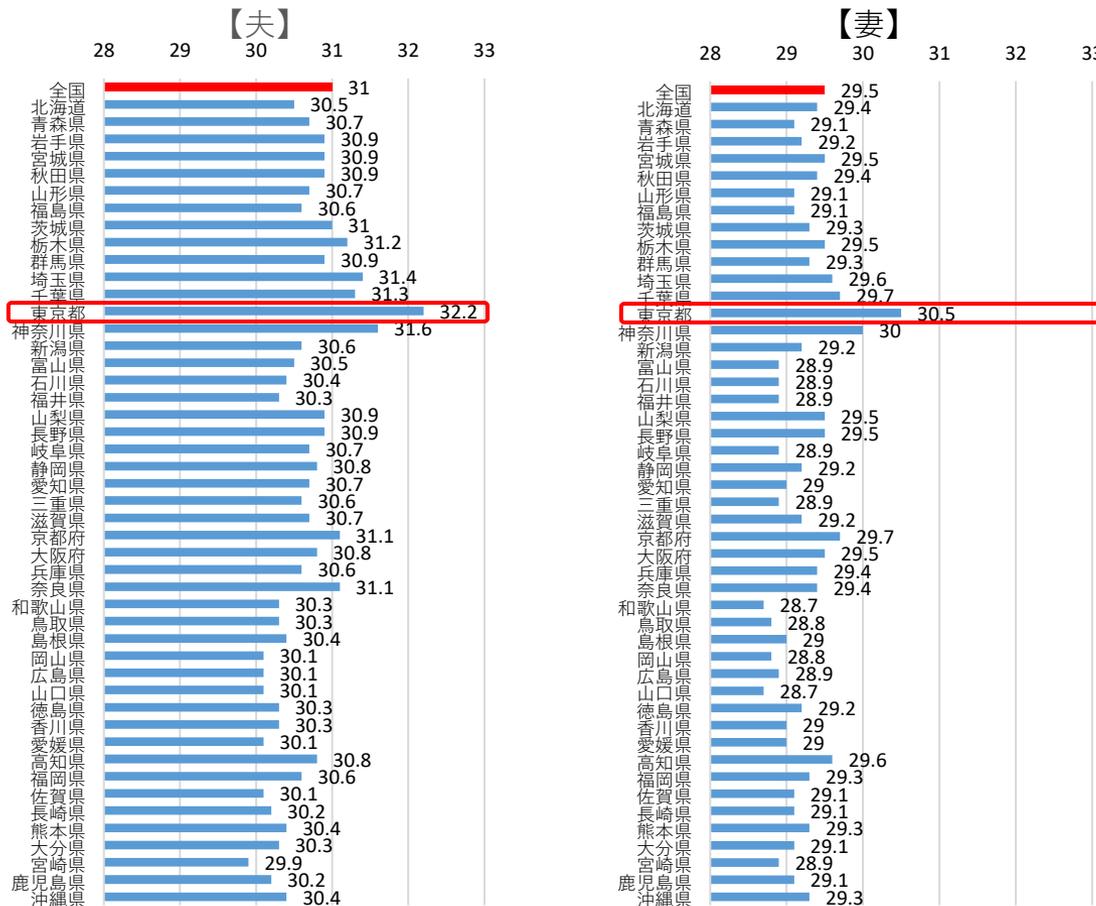
注:婚姻件数は、1987年に結婚生活に入ったもの。夫妻の年齢は、結婚式をあげた時または同居を始めた時の年齢である。

上: 厚生労働省『人口動態統計』「婚姻件数 (当該年に結婚生活に入り届け出たもの), 夫-妻の結婚生活に入ったときの年齢 (各歳); 夫妻の平均婚姻年齢, 初婚-再婚・都道府県 (特別区-指定都市再掲) 別」(2021年)より作成

下: 内閣府男女共同参画局『結婚と家族をめぐる基礎データ』「届出時の年齢別婚姻件数」(令和3年12月14日)

# (6) 晩婚化の進行？実は… ③

- 都道府県別にみても、夫の平均初婚年齢全国平均（2021年時点）は31歳となっているが、実際に初婚年齢が31歳を超えている主な地域は東京都やその近隣地域となっており、地域ごとに差異が見られる。



厚生労働省『人口動態統計』 「都道府県別にみた年次別夫妻の平均初婚年齢」 (2021年) より作成

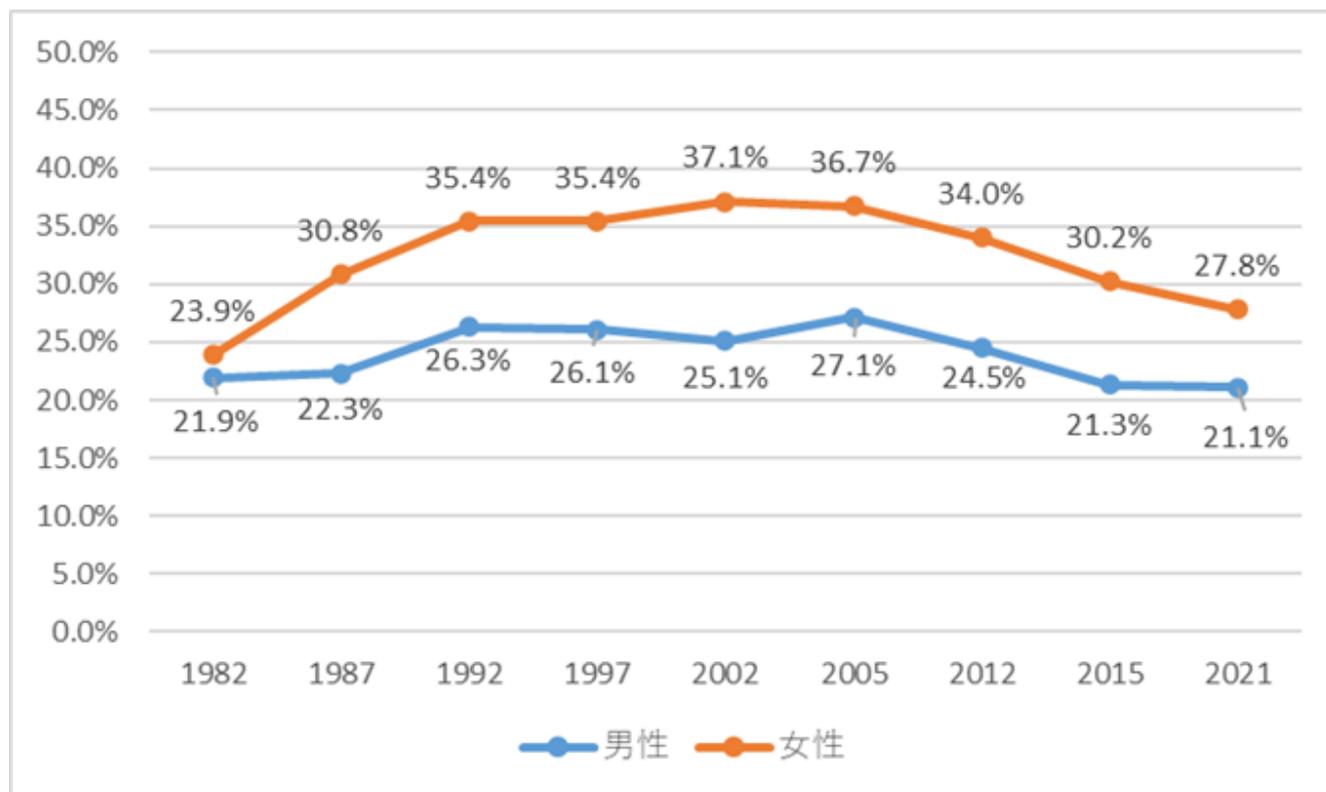
## 第2章. 未婚者の恋愛・結婚状況

ここでは、皆さんが今後かかわることになる未婚者の方たちを取り巻く社会の変化をみた上で、社会とともに変化する結婚に関する意識・行動を理解し、未婚者の方の希望をかなえる結婚支援とは何かを考えていきます。

# (1) 男女別にみる「交際相手がいる割合」の推移

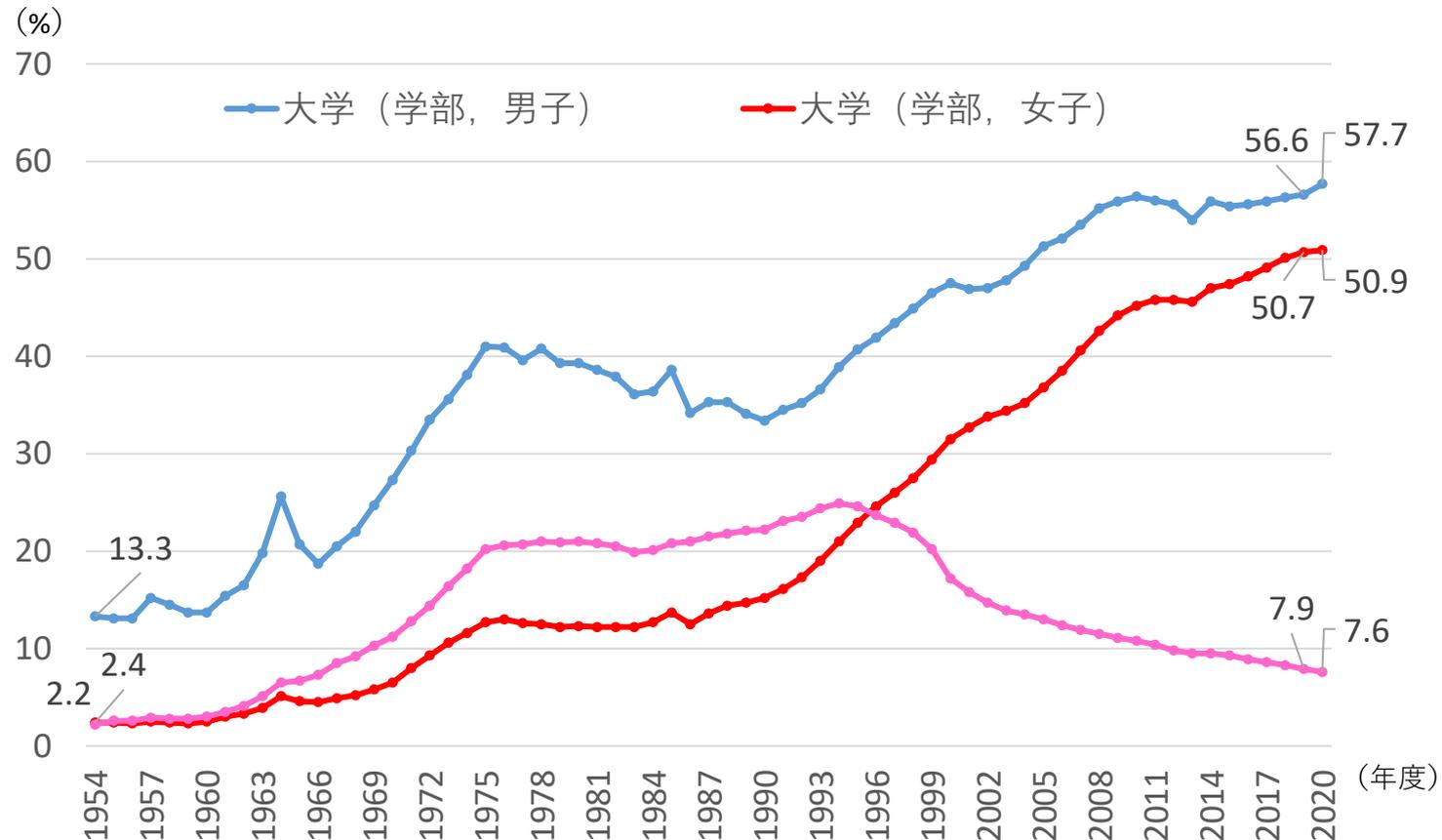
- 18歳から34歳の男女で、「恋人として交際している異性がいる」、または「婚約者がいる」人の割合は、男性が約2割、女性が約3割。

## 交際相手がいる割合の推移（18～34歳男女）



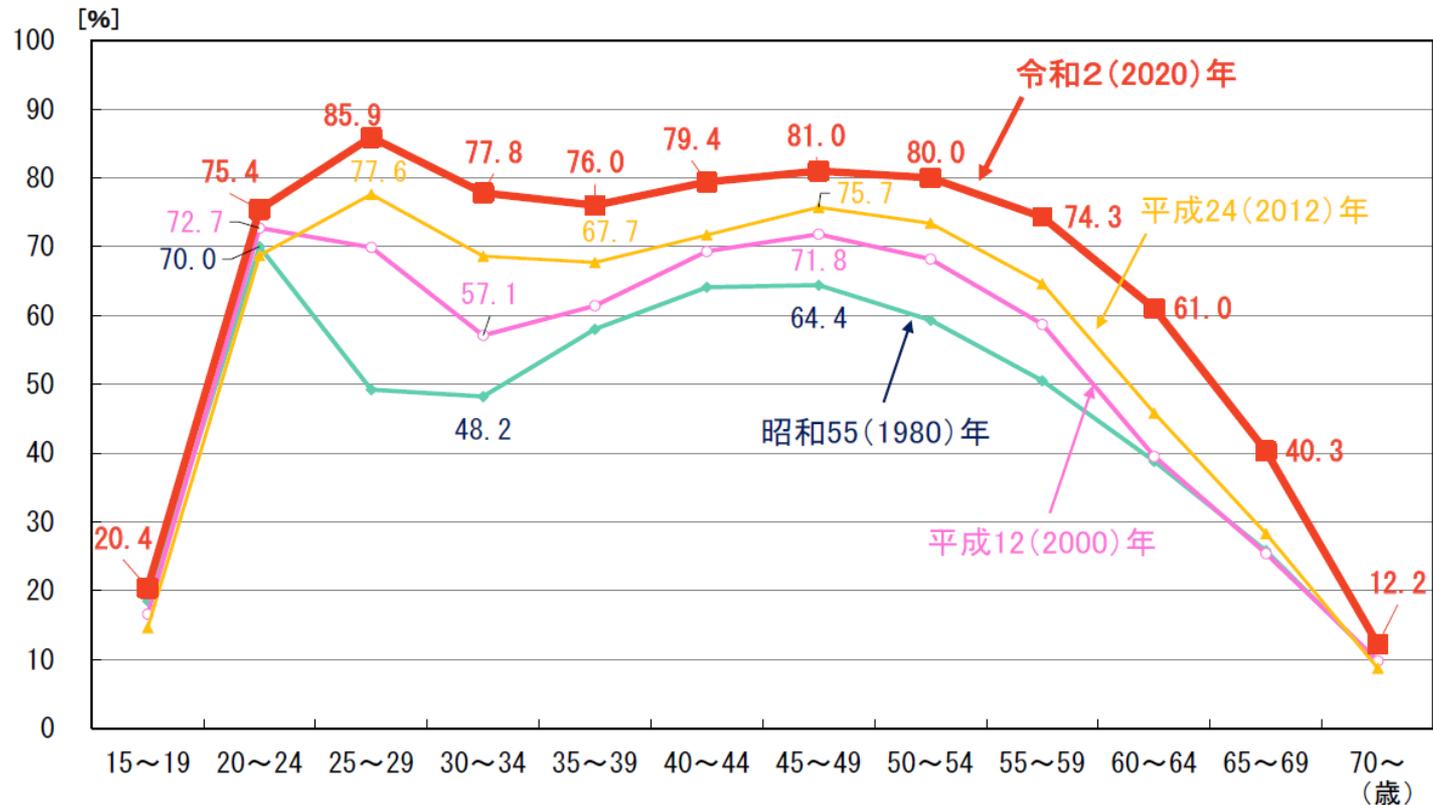
## (2) 男女別進学率の推移

- 結婚をめぐる社会情勢は、ここ30年ほどで大きく変化。4年制大学進学率について、男性で58%、女性で51%。男女間の進学率の差が縮小している。



### (3) 女性の年齢階級別労働力率の推移

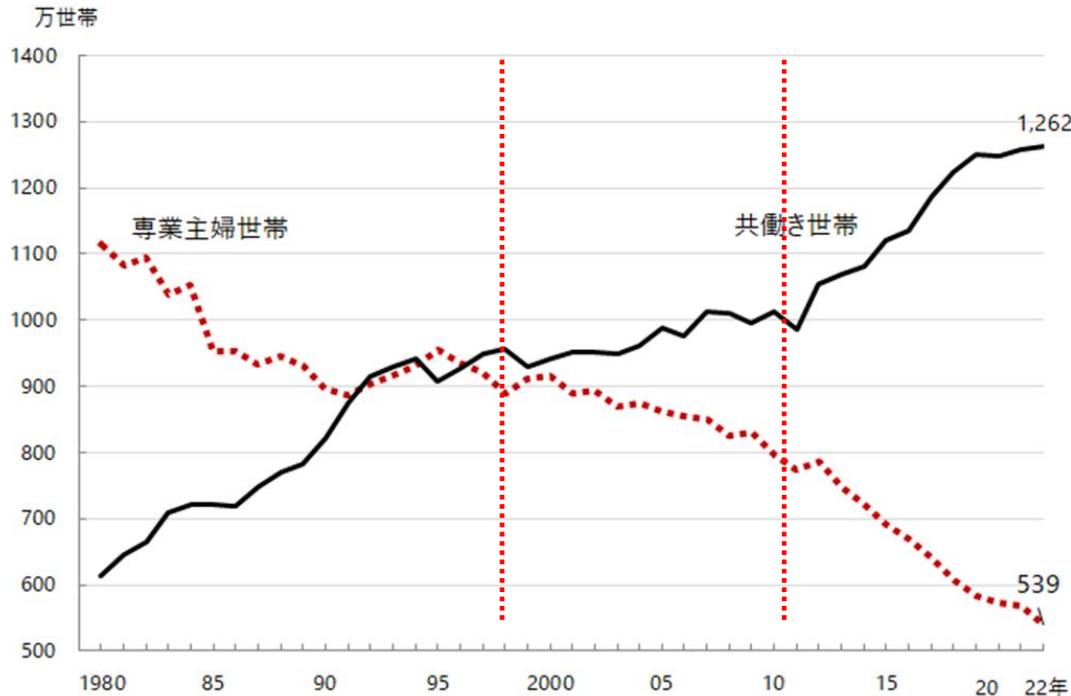
- 25歳～29歳の女性の労働力率は、1980（昭和55）年では、5割を切っていたが、2020（令和2）年では8割を超えている。20歳代後半が社会人としてのキャリア形成の時期と重なるようになった。



(備考) 1. 総務省「労働力調査（基本集計）」より作成。  
2. 労働力率は、「労働力人口（就業者＋完全失業者）」／「15歳以上人口」×100。

## (4) 共働き世帯と専業主婦世帯の推移

- 1980（昭和55）年以降、夫婦ともに雇用者の共働き世帯は増加し、1997（平成9）年以降は、共働き世帯が専業主婦世帯を上回っている。
- 2010年以降は、共働き世帯が急激に増えている。男女ともに働きながら家事・育児を担うことが求められる時代に。



資料出所 総務省統計局「労働力調査特別調査」、総務省統計局「労働力調査（詳細集計）」

注1 「専業主婦世帯」は、夫が非農林業雇用者で妻が非就業者（非労働力人口及び完全失業者）の世帯。2018年以降は夫が非農林業雇用者で妻が非就業者（非労働力人口及び失業者）の世帯。

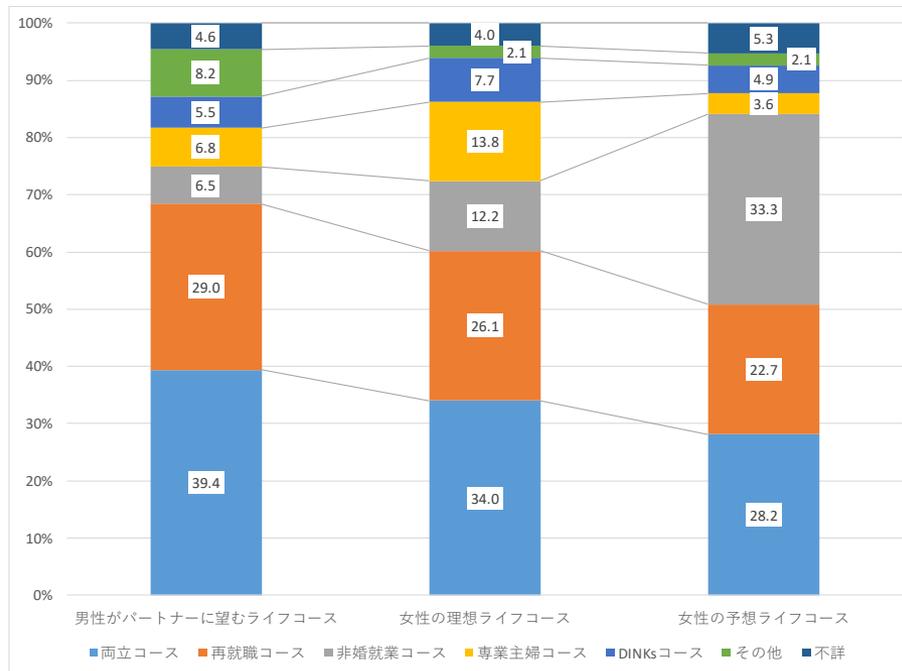
注2 「共働き世帯」は、夫婦ともに非農林業雇用者の世帯。

注3 2011年は岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

注4 2018年～2021年は2020年国勢調査基準のベンチマーク人口に基づく時系列接続用数値。

これまでは未婚者の意識についてみてきましたが、  
ここからは、未婚者の婚活などの**結婚行動**について  
見ていきたいと思います。

- 今後の人生のライフコースについて、女性は「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（両立コース）」を理想とする割合が**34.0%**で最多であり、男性がパートナーに望むライフコースも「両立コース」が最多である。しかし、女性が実際になりそうだと考える予想ライフコースでは、「結婚せず、仕事を続ける（非婚就業コース）」が**33.3%**で最多であり、本当は仕事と子育てを両立したいにもかかわらずそれを諦めざるを得ないと感じている女性が多いことが伺える。



国立社会保障・人口問題研究所『第16回出生動向基本調査』「図表3-1-1 調査別にみた、女性の理想・予想のライフコース、男性がパートナーに望むライフコース」を基に作成

※DINKSとは、Double Income No Kidsの略であり、こどもを持たない共働き夫婦のことである。

## (6) 恋愛や婚活に受け身になりがち

- 「恋愛は面倒」、「自信がない」との回答も一定割合あり。恋愛に対して、相手からアプローチがあれば考えるが4割。

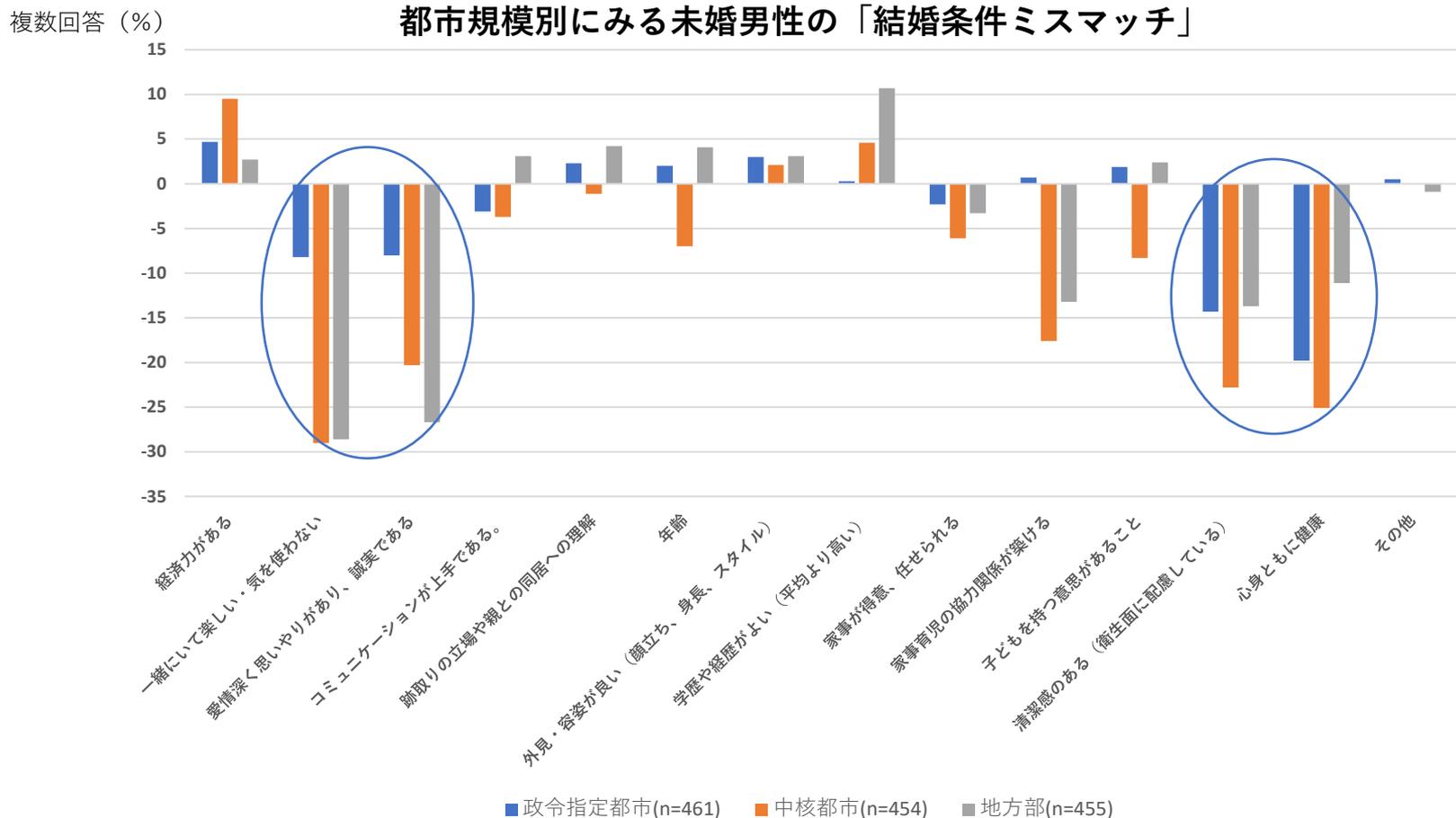
### 恋愛に関する考え方

(複数回答) (%)

	2020年							
	日本		フランス		ドイツ		スウェーデン	
	男性 (n=648)	女性 (n=724)	男性 (n=493)	女性 (n=507)	男性 (n=520)	女性 (n=502)	男性 (n=505)	女性 (n=495)
恋愛よりも勉強や仕事を優先したい	14.5	10.5	16.2	14.0	16.5	11.8	14.1	11.7
恋愛よりも趣味を優先したい	22.4	14.5	17.0	9.3	7.9	7.2	10.1	8.3
交際すると相手との結婚を考える	34.0	39.6	17.6	26.2	36.2	40.8	29.1	32.5
いつも恋愛をしていたい	8.8	9.0	21.1	28.0	29.4	30.3	22.6	16.6
気になる相手には自分から積極的にアプローチをする	22.7	16.6	21.9	13.0	41.3	35.1	36.0	32.7
相手からのアプローチがあれば考える	34.6	45.6	11.2	9.7	16.9	17.1	31.7	19.2
恋愛することで人生は豊かになる	43.1	52.2	52.1	55.8	58.1	66.7	87.1	88.1
恋愛は面倒だと感じる	19.1	19.6	2.0	1.0	5.0	5.4	15.6	13.1
恋愛することに自信がない	14.7	13.7	6.1	6.7	6.9	7.0	2.2	1.2
恋愛はしたいがお金がかかる	15.7	7.9	6.9	3.0	10.0	3.6	4.0	3.4

# (7) 都市規模別にみる未婚男性の「結婚条件ミスマッチ」

- 男性は「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」「健康」「清潔感」を過小評価。中核都市・地方部在住の男性は、政令指定都市在住の男性と比べて「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」という条件を過小評価する傾向。



内閣府子ども・子育て本部『結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』

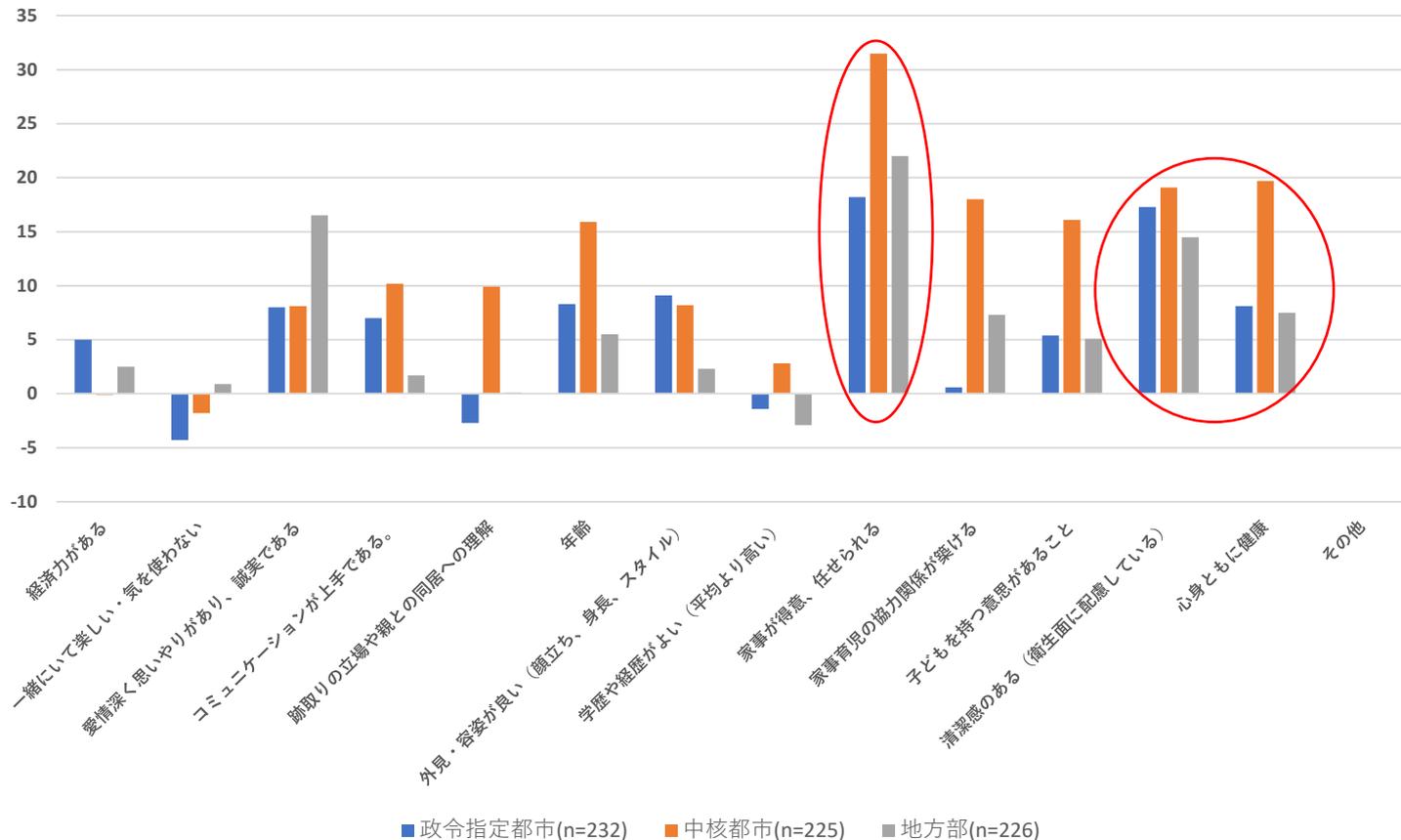
(ミスマッチ = 結婚相手から求められていると思う条件 (男性回答率) - 結婚相手に求める条件 (女性回答率))

# (8) 都市規模別にみる未婚女性の「結婚条件ミスマッチ」

- 女性は「家事が得意」「清潔感」「健康」という条件について、男性側が相手に求める条件との間に、認識のギャップがある。

複数回答 (%)

### 都市規模別にみる未婚女性の「結婚条件ミスマッチ」



内閣府子ども・子育て本部『結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』

(ミスマッチ = 結婚相手から求められていると思う条件 (女性回答率) - 結婚相手に求める条件 (男性回答率))

- 未婚者と既婚者の双方の金額に関する意識がわかるデータによると、未婚者は実際よりも過大に「結婚生活にはお金がかかる」と思いがち。

## 結婚後に期待する相手の年収（未婚者vs既婚者）

未婚者		
1位	400万～500万	23.6%
2位	500万～600万	20.1%
3位	300万～400万	15.2%
4位	700万～1,000万	12.4%
5位	600万～700万	10.0%

既婚者		
1位	400万～500万	23.5%
2位	300万～400万	21.1%
3位	500万～600万	18.1%
4位	200万～300万	11.1%
5位	700万～1,000万	7.0%

資料：明治安田総合研究所「20代～40代の恋愛と結婚—第9回結婚・出産に関する調査より—」（2016年）より作成  
※〔全国の20歳～49歳の男女3,595人対象〕

未婚者・離別・死別（全体）		
1位	500万円以上～600万円未満	21.4%
2位	300万円以上～400万円未満	19.0%
3位	400万円以上～500万円未満	15.9%
4位	200万円以上～300万円未満	9.9%
5位	700万円以上～1,000万円未満	7.6%

上：天野馨南子（2021）『未婚化する日本』「結婚後に期待する相手の年収は？」（未婚者vs既婚者）P142

下：明治安田総合研究所『2023年 恋愛・結婚に関するアンケート調査』「図表12 求める最低年収と最低貯蓄額」より作成

- 18歳から34歳までの未婚女性の約8割が、おなじ歳～4歳年上までの男性との結婚を希望。また、未婚男性の約7割がおなじ歳～4歳年下までの女性との結婚を希望。

## 18～34歳の未婚男女の希望する「結婚相手との年齢差」ランキング

### 女性の希望

	男性との歳の差	割合	累計割合
1位	1～2歳年上	29.6%	29.6%
2位	おなじ歳	28.4%	58.0%
3位	3～4歳年上	20.6%	78.6%
4位	5～6歳年上	12.0%	90.6%
5位	7歳以上年上	5.6%	
6位	年下	3.9%	

### 男性の希望

	女性との歳の差	割合	累計割合
1位	おなじ歳	41.8%	41.8%
2位	1～2歳年下	14.9%	56.7%
3位	5～6歳年下	14.5%	—
4位	3～4歳年下	12.0%	68.7%
5位	7歳以上年下	8.5%	
6位	年上	6.7%	

資料：国立社会保障・人口問題研究所（2015年）「第15回出生動向基本調査（独身者調査）」より作成

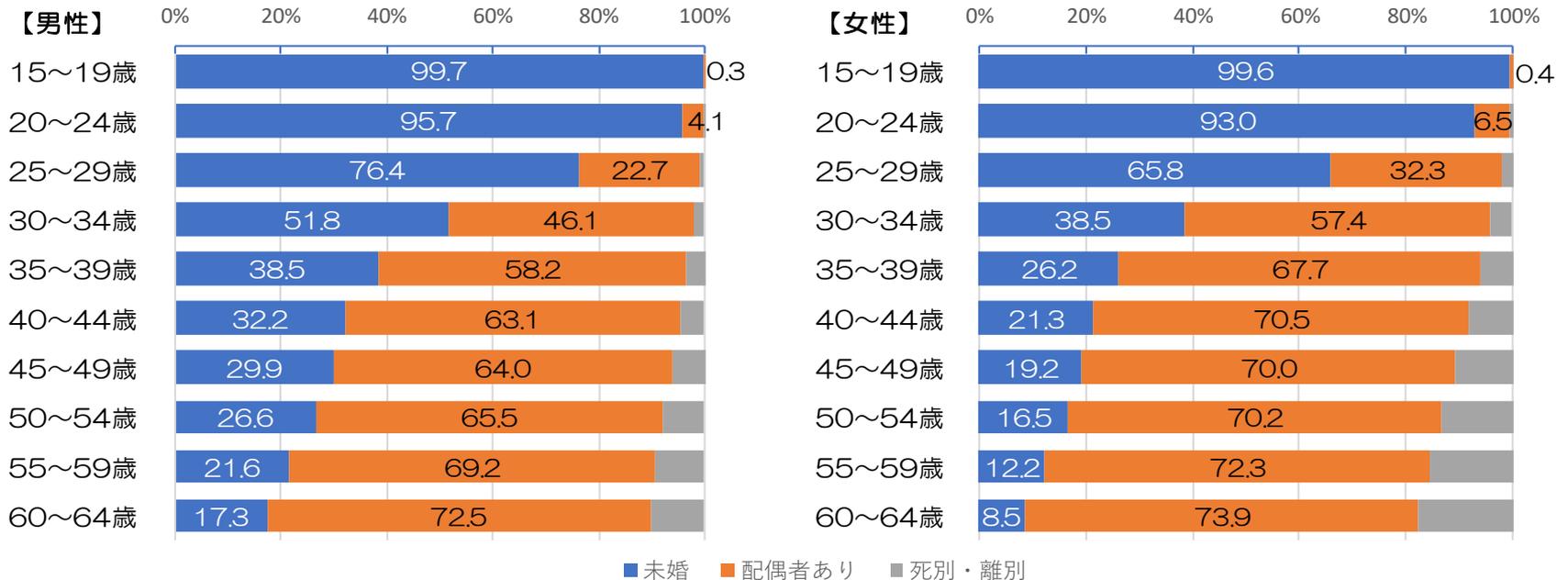
※〔2015年の独身者調査の有効票数は8,752票、夫婦調査の有効票数は6,598票〕

天野馨南子（2019）『データで読み解く「生涯独身」社会』

「18歳～34歳の未婚男女の希望する「結婚相手との年齢差」ランキング」P67

- 男性が30代前半にもなると、すでに希望している同年齢ゾーンの女性の約6割は既婚。その一方で、男性は約半数が未婚のまま。
- 男性が30代前半になってから同年齢ゾーンの女性と結婚を希望しても、同年齢ゾーンの未婚女性は少なくなっている。

## 年齢ゾーン別 未婚者の割合



資料：令和2年国勢調査より作成

- 芸能人カップルの年の差婚が報道されて目立つ傾向があるが、実は、統計上、年の差婚はかなりレアケース。
- 若い相手との結婚を望むのならば、自分も若いうちから婚活を始めないと、希望をかなえるのは難しい。

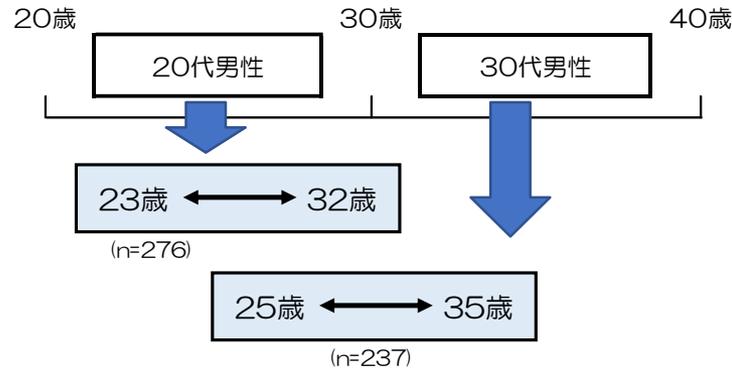
## 初婚カップルの年齢差

	年齢差	婚姻数	割合	割合累計
1位	同年齢	59,596	22.4%	22.4%
2位	夫1歳上	37,357	14.0%	36.4%
3位	妻1歳上	27,157	10.2%	46.6%
4位	夫2歳上	24,702	9.3%	55.9%
5位	夫3歳上	19,069	7.2%	63.1%
6位	夫4歳上	14,789	5.6%	73.6%
7位	妻2歳上	13,174	4.9%	77.7%

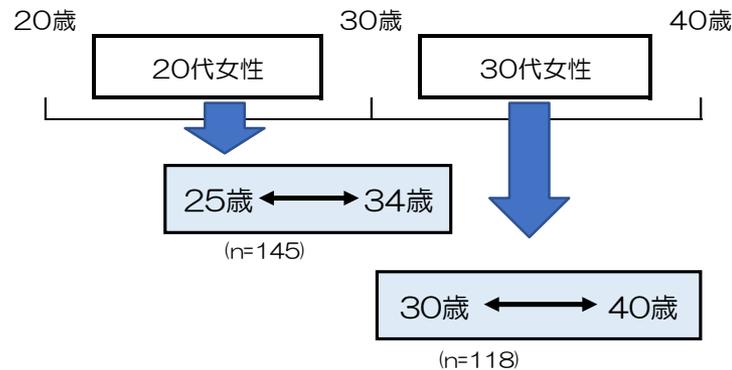
- 未婚女性に比べて未婚男性は自己年齢が高くなるにつれて自分よりも年上拒否、年下選好の傾向が高まる。

## 結婚希望年齢の違い 未婚男性／未婚女性（20～30代）

【男性】



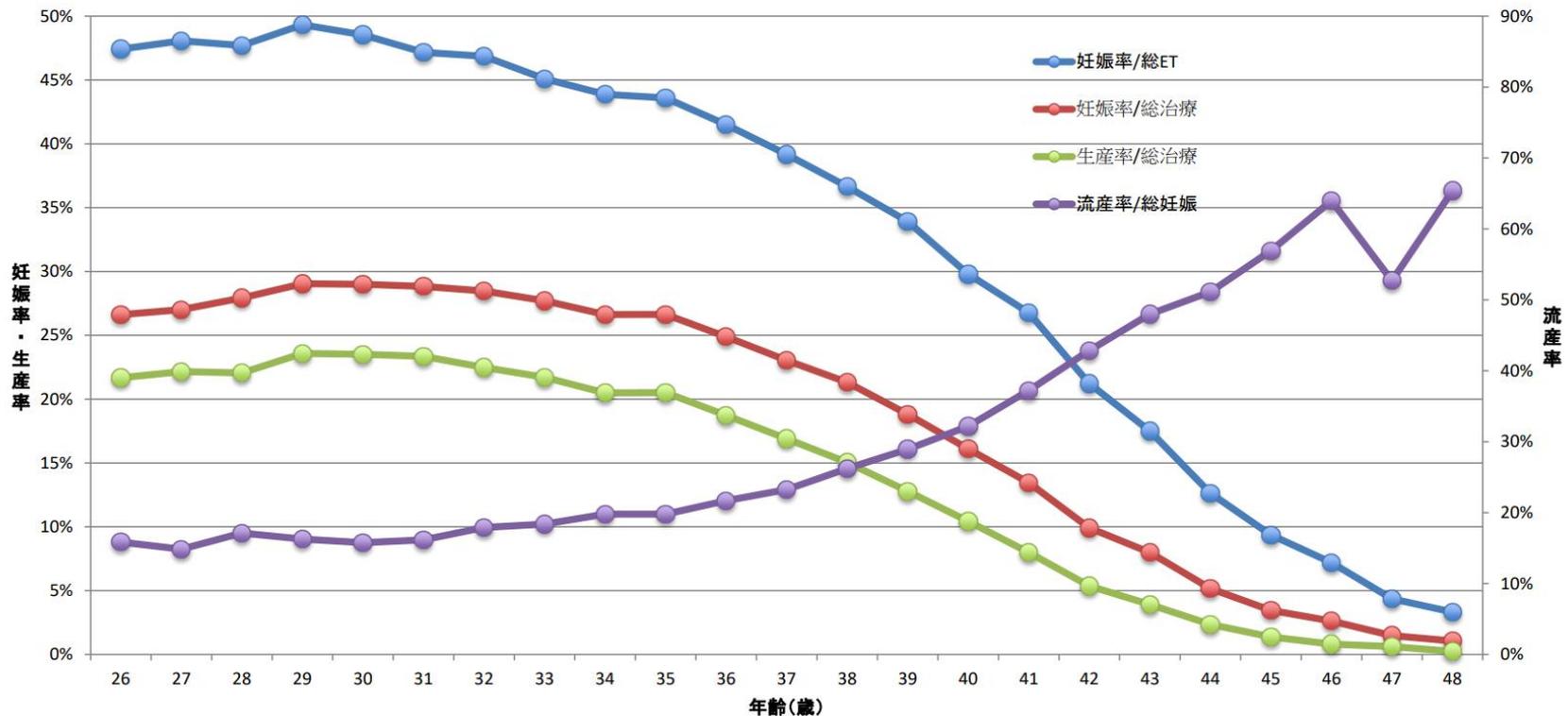
【女性】



- 年齢が高くなるほど妊娠する確率は下がり、流産する確率は高まる傾向にある。

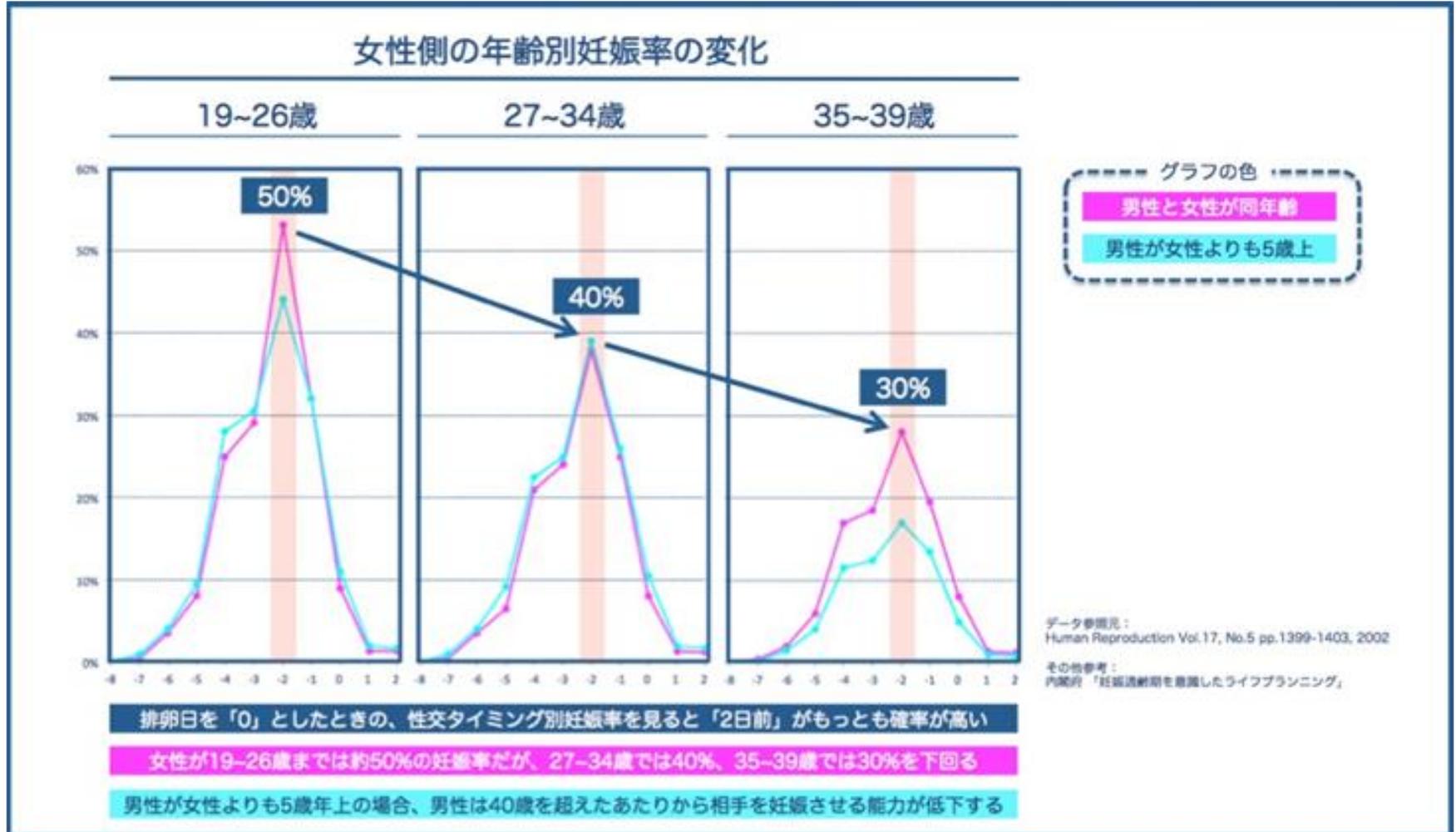
ART妊娠率・生産率・流産率 2021

## ART妊娠率・生産率・流産率 2021



# (13) 年齢と妊娠の関係②

- 男性についても、40歳を超えたあたりから相手を妊娠させる能力が低下することがデータから示唆されている。

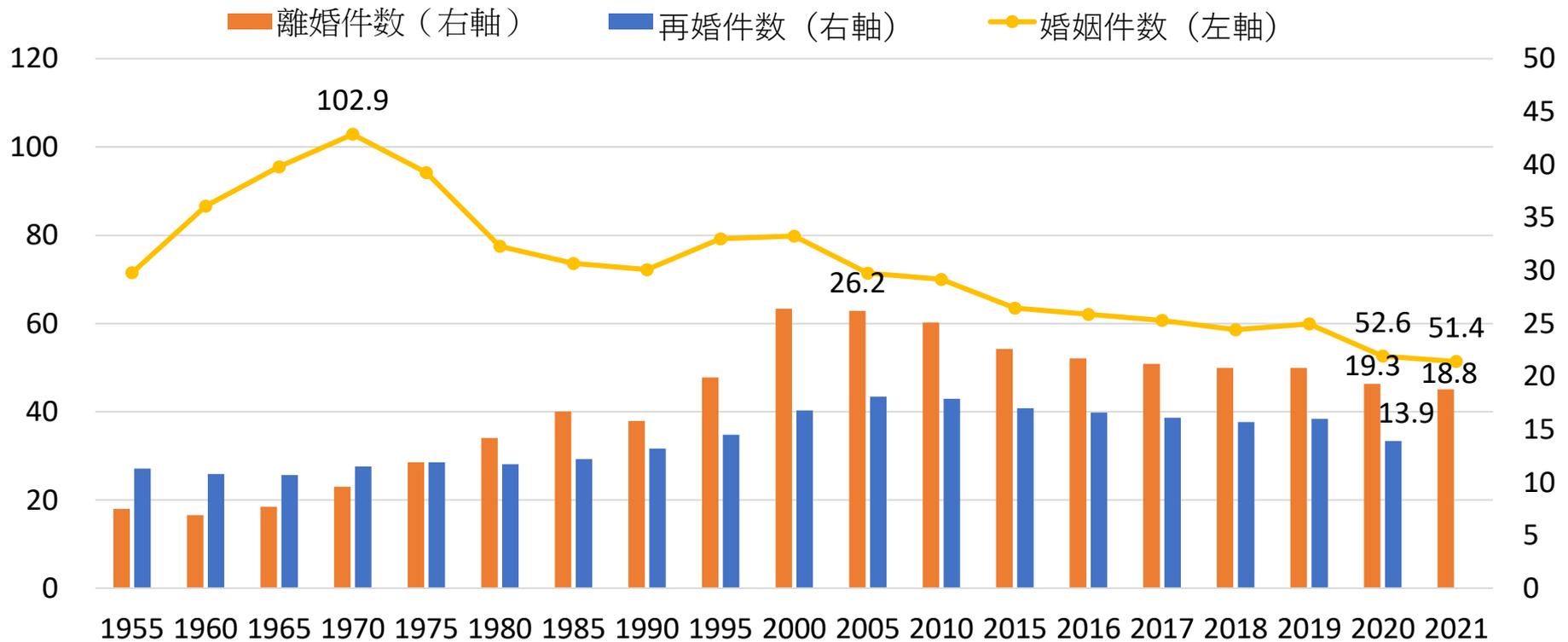


三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」ウェブサイト

(データ提供元：Human Reproduction Vol.17, No.5 pp.1399-1403, 2002、その他参考：内閣府「妊娠適齢期を意識したライフプランニング」)

- 離婚件数は、1960年代と比較して大幅に増加。
- 2021年は、年間51万件的婚姻件数に対し、離婚件数は年間19万件、再婚件数は2020年時点で年間14万件。

## 結婚・離婚・再婚件数の年次推移

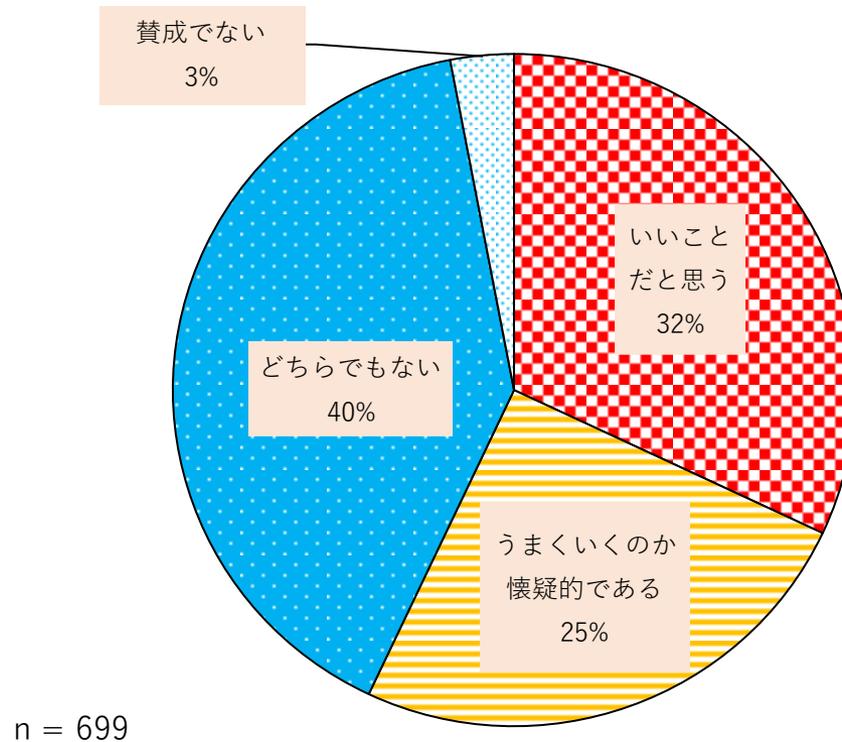


内閣府男女共同参画局『令和4年版 男女共同参画白書』「特-1 婚姻・離婚・再婚件数の年次推移」より作成  
『結婚と家族をめぐる基礎データ』「結婚・離婚・再婚件数の年次推移」(令和3年7月26日)

※2021年は離婚件数と婚姻件数のみ記載。

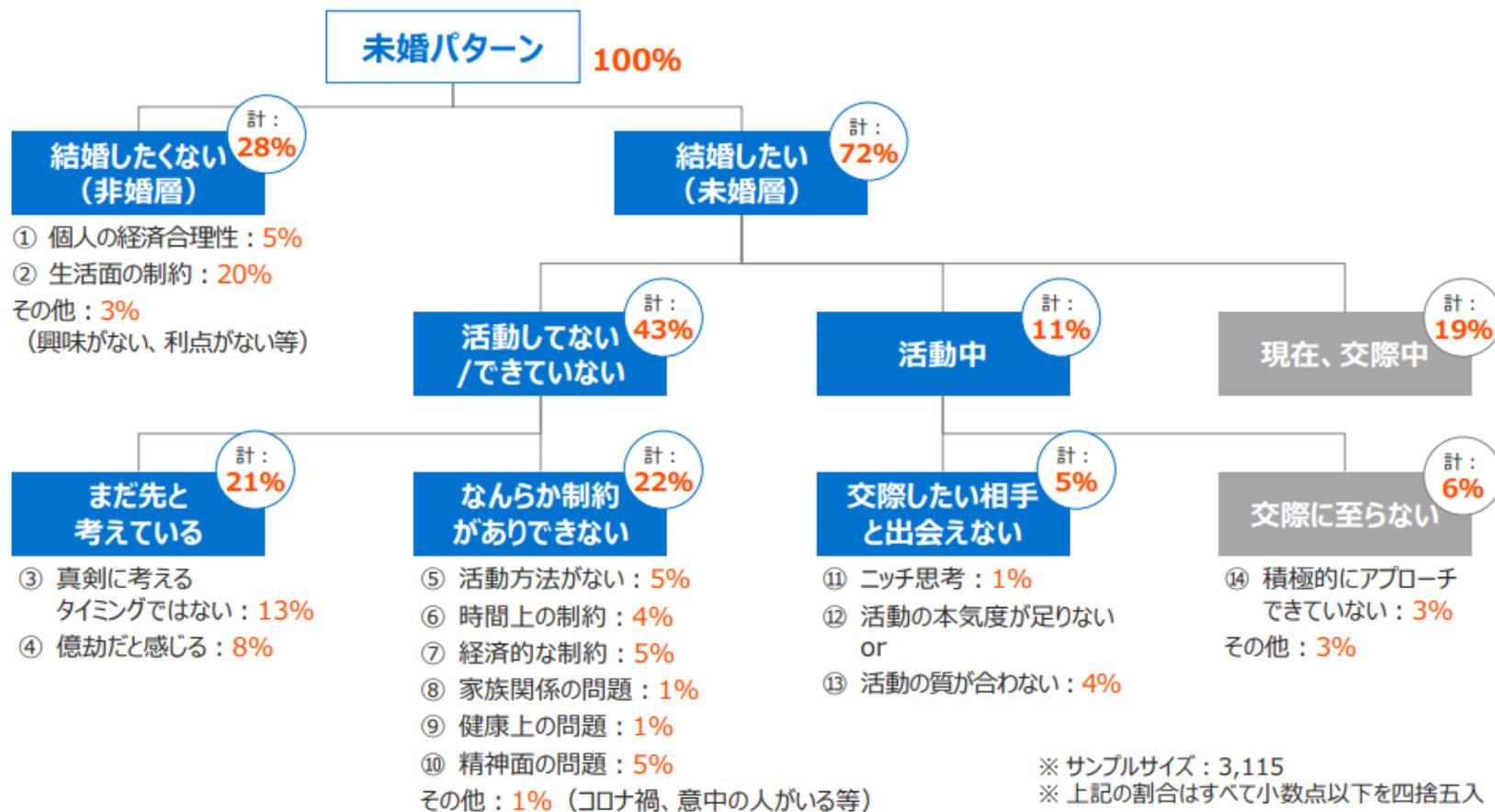
- どちらかに子どもがいる場合の再婚ケースの家族「ステップファミリー」に対する肯定的意見は32%。

## ステップファミリーについての意見



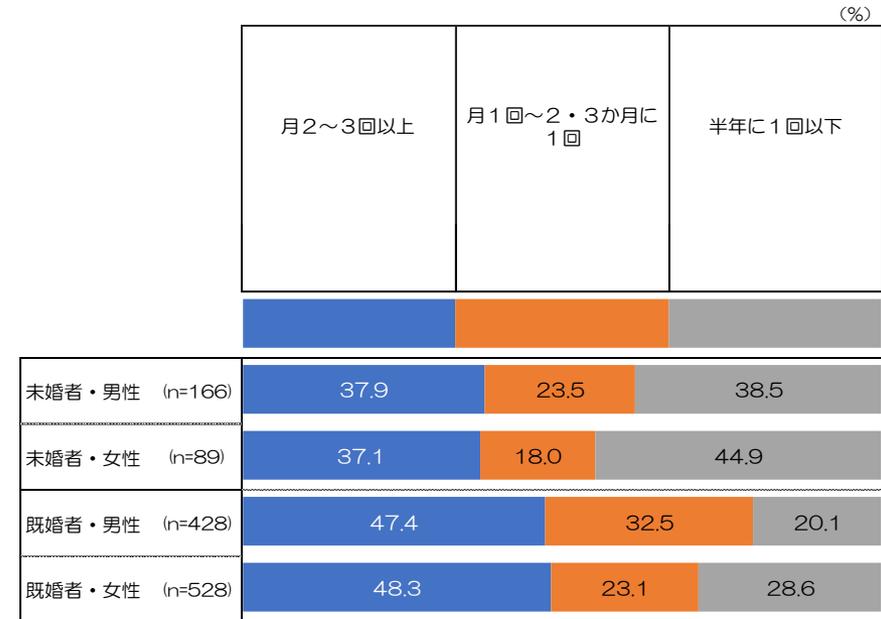
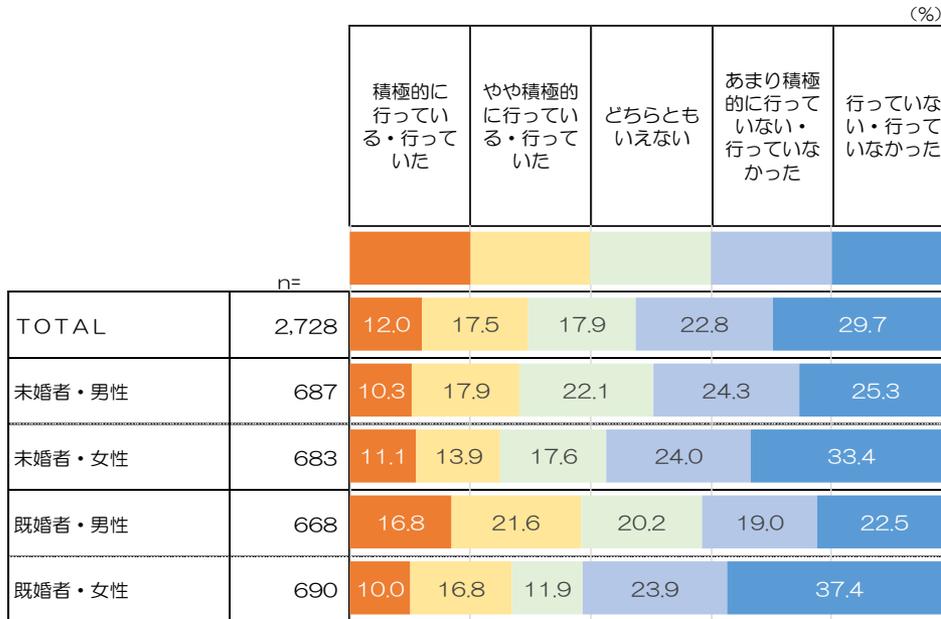
これまでは未婚者の意識についてみてきましたが、  
ここからは、未婚者の婚活などの**結婚行動**について  
見ていきたいと思います。

- 未婚者の未婚パターンを整理した調査によると、調査対象の未婚者のうち72%は「結婚したい」と考えているが、うち43%はまだ結婚に向けた活動に踏み出せていない層である。



- 既婚者は未婚者より総じて、独身時代の婚活・恋人探し活動が積極的。

## 婚活・恋人探しの実施状況



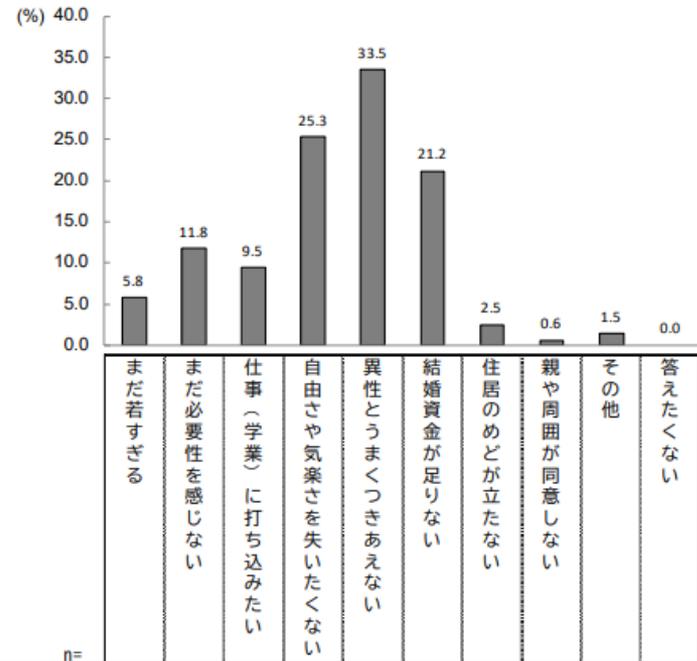
左図：内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』  
「婚活・恋人探しの実施状況」より抜粋

右図：株式会社エウレカ（2020）『日本の未婚化の要因に関する仮説検証調査』  
「Q8 活動頻度 未婚者/既婚者（20～40代）」

# (18) 異性との交際に自信がなく行動しない男性に対し、自分なりの考えがあって行動しない女性

- 20歳から49歳の未婚男女のうち、行動を起こしていない男性では、「異性とうまくつきあえない」、行動を起こしていない女性では、他に「自由さや気楽さを失いたくない」「まだ必要性を感じない」との回答が多い。

“適切な相手にめぐりあわない”と回答した者のうち、具体的な相手を探すための行動の有無別・性別で見た結婚していない理由



		n=										
		1864	5.8	11.8	9.5	25.3	33.5	21.2	2.5	0.6	1.5	0.0
何らかの行動を起こした	男性	318	3.8	9.1	9.4	20.8	37.1	26.1	3.8	0.9	2.2	0.0
	女性	402	4.7	9.2	11.9	26.9	33.8	13.9	1.7	0.7	1.0	0.0
特に何も行動を起こしていない	男性	699	6.3	12.0	8.3	24.2	37.3	30.3	3.4	0.0	1.4	0.0
	女性	445	7.4	15.7	9.4	29.0	24.7	10.1	0.9	1.1	1.6	0.0

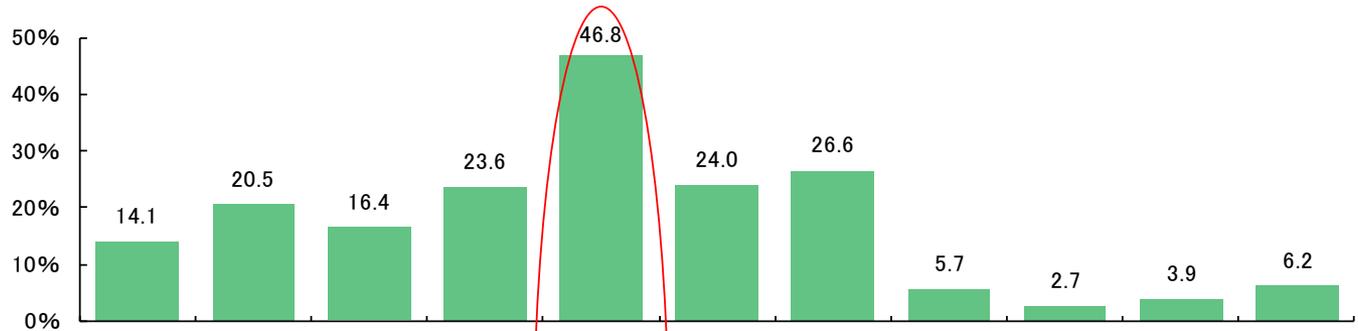
※何らかの行動を起こした：問26において、「特に何も行動を起こしていない」以外を選択した男女  
 ※特に何も行動を起こしていない：問26において、「特に何も行動を起こしていない」を選択した男女  
 ※「適切な相手にめぐりあわない」が100%のため、省略している。

内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』“適切な相手にめぐりあわない”と回答した者のうち、「具体的な相手を探すための行動の有無別・性別で見た結婚していない理由」（複数回答）

# (19) 年齢が上がるにつれ見付きにくい「理想の相手」

- 結婚していない理由について、年齢が上がるにつれ「適当な相手にめぐりあわない」の回答割合が大きくなる。

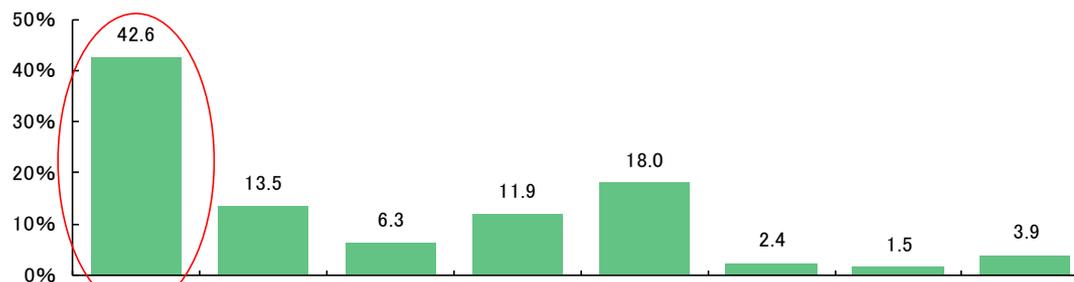
## 結婚していない理由



		n=	まだ若すぎる	まだ必要性を感じない	仕事(学業)に打ち込みたい	自由さや気楽さを失いたくない	適当な相手にめぐりあわない	異性とうまくつきあえない	結婚資金が足りない	住居のめどが立たない	親や周囲が同意しない	その他	答えたくない
TOTAL		3,980	14.1	20.5	16.4	23.6	46.8	24.0	26.6	5.7	2.7	3.9	6.2
男性	合計	2,241	14.1	19.9	15.5	22.4	45.4	26.4	32.7	6.2	1.7	2.8	6.1
	20~29歳	1,066	28.9	24.0	25.4	19.1	35.1	23.6	34.2	5.9	1.5	2.1	4.8
	30~39歳	656	1.1	17.1	7.3	24.1	52.3	32.6	34.0	7.2	2.3	2.6	6.4
	40~49歳	519	0.4	15.2	5.4	26.8	57.8	24.1	27.9	5.6	1.5	4.4	8.3
女性	合計	1,739	14.1	21.3	17.7	25.2	48.7	21.0	18.7	5.1	4.0	5.3	6.3
	20~29歳	973	24.7	27.6	28.2	25.1	38.6	17.9	21.7	5.2	3.6	4.8	4.8
	30~39歳	458	0.7	14.4	5.5	24.2	61.1	30.1	14.6	3.3	5.0	5.5	9.4
	40~49歳	308	0.6	11.4	2.6	26.9	62.0	17.5	15.6	7.1	3.6	6.5	6.2

- 男女とも「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない」が最も高くなっている。

## 適当な相手とめぐりあわない理由①



		n=	42.6	13.5	6.3	11.9	18.0	2.4	1.5	3.9
TOTAL		1,864	42.6	13.5	6.3	11.9	18.0	2.4	1.5	3.9
男性	合計	1,017	44.2	11.8	5.1	14.5	16.6	2.0	1.6	4.2
	20～29歳	374	38.0	12.6	2.9	13.9	23.5	2.1	2.7	4.3
	30～39歳	343	50.1	9.0	7.6	14.3	12.8	1.5	0.6	4.1
	40～49歳	300	45.3	14.0	5.0	15.3	12.3	2.3	1.3	4.3
女性	合計	847	40.6	15.5	7.8	8.7	19.7	2.8	1.4	3.4
	20～29歳	376	32.4	18.6	6.6	8.0	26.6	2.7	1.9	3.2
	30～39歳	280	47.1	10.4	7.1	10.7	17.9	2.9	0.4	3.6
	40～49歳	191	47.1	16.8	11.0	7.3	8.9	3.1	2.1	3.7

# (21) 政令都市在住以外の男性の結婚難要因となっている「不安定雇用」 42

- 都市規模別に結婚に至らない理由をみると、政令都市と比べて、中核都市・地方部在住の男性で「雇用が安定しないから」の回答割合が大きい。

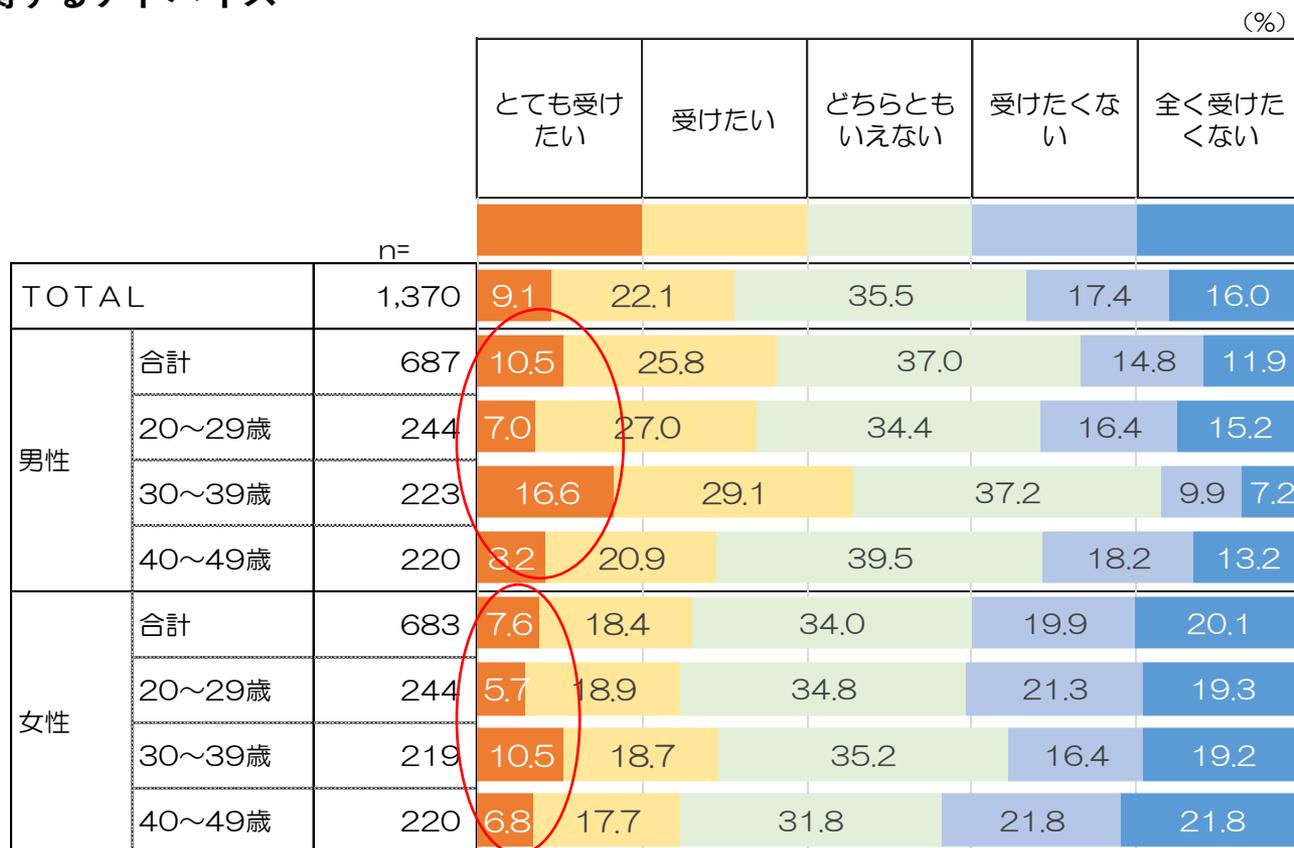
## 結婚に至らない理由

(複数回答) (%)

		n=	自分に合った相手となかなか出会えない	異性とのコミュニケーションに対する苦手意識がある	自由さや気楽さを失いたくないから	仕事や趣味・プライベートに打ち込みたい・集中したい	結婚後の生活費不足が不安だから	雇用が安定しないから	出会いはあるが、恋人以上に発展しない	理想が高い	親や周囲が同意しないから	子どもが嫌いだから	長男長女で避けられることが多いから	その他
未婚者 TOTAL	合計	1370	40.5	24.0	23.7	23.6	22.0	16.7	15.5	13.6	4.0	4.0	3.1	6.4
	政令都市在住	461	39.0	24.1	23.0	23.6	19.3	12.4	14.5	16.7	2.4	3.9	2.6	6.9
	中核都市在住	454	40.3	25.3	25.6	24.4	22.7	18.3	16.7	11.2	4.8	5.1	2.4	6.8
	地方部在住	455	42.2	22.6	22.6	22.9	24.2	19.6	15.4	13.0	4.8	3.1	4.2	5.5
未婚者・ 男性	合計	687	38.7	27.9	22.0	26.2	26.5	19.7	17.8	9.9	3.8	3.1	3.8	4.1
	政令都市在住	229	34.1	27.5	24.0	27.5	25.8	14.4	17.0	10.5	2.2	3.1	4.4	5.2
	中核都市在住	229	39.3	31.9	22.3	26.6	24.5	20.1	19.7	9.6	4.8	3.1	3.1	3.9
	地方部在住	229	42.8	24.5	19.7	24.5	29.3	24.5	16.6	9.6	4.4	3.1	3.9	3.1
未婚者・ 女性	合計	683	42.3	20.1	25.5	21.1	17.6	13.8	13.3	17.4	4.2	5.0	2.3	8.8
	政令都市在住	232	44.0	20.7	22.0	19.8	12.9	10.3	12.1	22.8	2.6	4.7	0.9	8.6
	中核都市在住	225	41.3	18.7	28.9	22.2	20.9	16.4	13.8	12.9	4.9	7.1	1.8	9.8
	地方部在住	226	41.6	20.8	25.7	21.2	19.0	14.6	14.2	16.4	5.3	3.1	4.4	8.0

- 婚活、結婚に関するアドバイスを第三者から受けたいと思うかというニーズについて、「受けたい」、「とても受けたい」ともに、男女年代問わず、ある程度の割合を占める。

## 婚活、結婚に関するアドバイス



## (23) 婚活、結婚に関して受けたと思う支援の男女ギャップ

- 「良い人の紹介」以外では、女性と比べて男性では「デートスポット」「ファッション」などの要望が強い。一方、女性では、「結婚の決め手や壁を乗り越えるための考え方」の要望が強い。

### 婚活、結婚に関するアドバイス

(複数回答) (%)

		n=	良い人の紹介	結婚の決め手や壁を乗り越えるための考え方	交際術やコミュニケーションのとりかた	デートスポットのアドバイス	ファッションなどのアドバイス	その他
未婚者 TOTAL	合計	427	76.3	46.8	46.4	28.6	28.1	0.7
	政令都市在住	147	74.8	49.0	50.3	25.9	27.9	0.7
	中核都市在住	135	79.3	48.9	47.4	34.1	30.4	1.5
	地方部在住	145	75.2	42.8	41.4	26.2	26.2	0.0
未婚者・ 男性	合計	249	75.9	41.4	51.4	40.2	36.1	0.0
	政令都市在住	90	74.4	42.2	53.3	35.6	34.4	0.0
	中核都市在住	79	78.5	45.6	51.9	46.8	36.7	0.0
	地方部在住	80	75.0	36.3	48.8	38.8	37.5	0.0
未婚者・ 女性	合計	178	77.0	54.5	39.3	12.4	16.9	1.7
	政令都市在住	57	75.4	59.6	45.6	10.5	17.5	1.8
	中核都市在住	56	80.4	53.6	41.1	16.1	21.4	3.6
	地方部在住	65	75.4	50.8	32.3	10.8	12.3	0.0

## 第3章. 婚活・結婚支援サービス業界の現状

(これまで)

- ・世話好きな親戚や知人が「お見合い」の話を持ってくる
- ・職場内恋愛などの出会いの機会



(最近)

- ・こうした出会いの機会が減少。
- ・マッチングアプリの利用が増加するなど、新たな出会いの機会も誕生。

ここでは、結婚相談所やマッチングアプリなどを含む、最近の結婚支援サービス業界全体の動向や、個別の婚活・結婚支援サービス事業者の状況・近年の婚活サービスに対するイメージの変化について見ていきたいと思えます。

- 男女ともに20代と30代において利用経験者が多い（20代男性24.9%、30代男性24.4%、20代女性26.5%、30代女性33.7%）。また、新型コロナウイルス流行前と比べて婚活サービスのイメージ向上や婚活へのモチベーションの高まりが伺える。

■ 婚活サービスの利用経験割合【全体・性年代別】（1次調査/恋愛もしくは結婚意向がある恋人のいない独身者/単一回答）

※婚活サービス：結婚相談所、ネット系婚活サービス、婚活パーティ・イベントの3サービス  
 ※独身者：結婚経験のない未婚者および結婚経験のある（死別・離別の）現在独身者



■ 「婚活（恋活）サービス」に関する内容について、新型コロナウイルス流行前（2020年3月以前）と比べた際の意識や状況の変化（2次調査/恋愛もしくは結婚意向のある婚活サービス利用中の独身者/それぞれ単一回答）  
 ※婚活サービス：結婚相談所、ネット系婚活サービス、婚活パーティ・イベントの3サービス  
 ※婚活サービス利用者：本調査タイミングで何らかしらの婚活サービスを利用  
 ※小数第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある

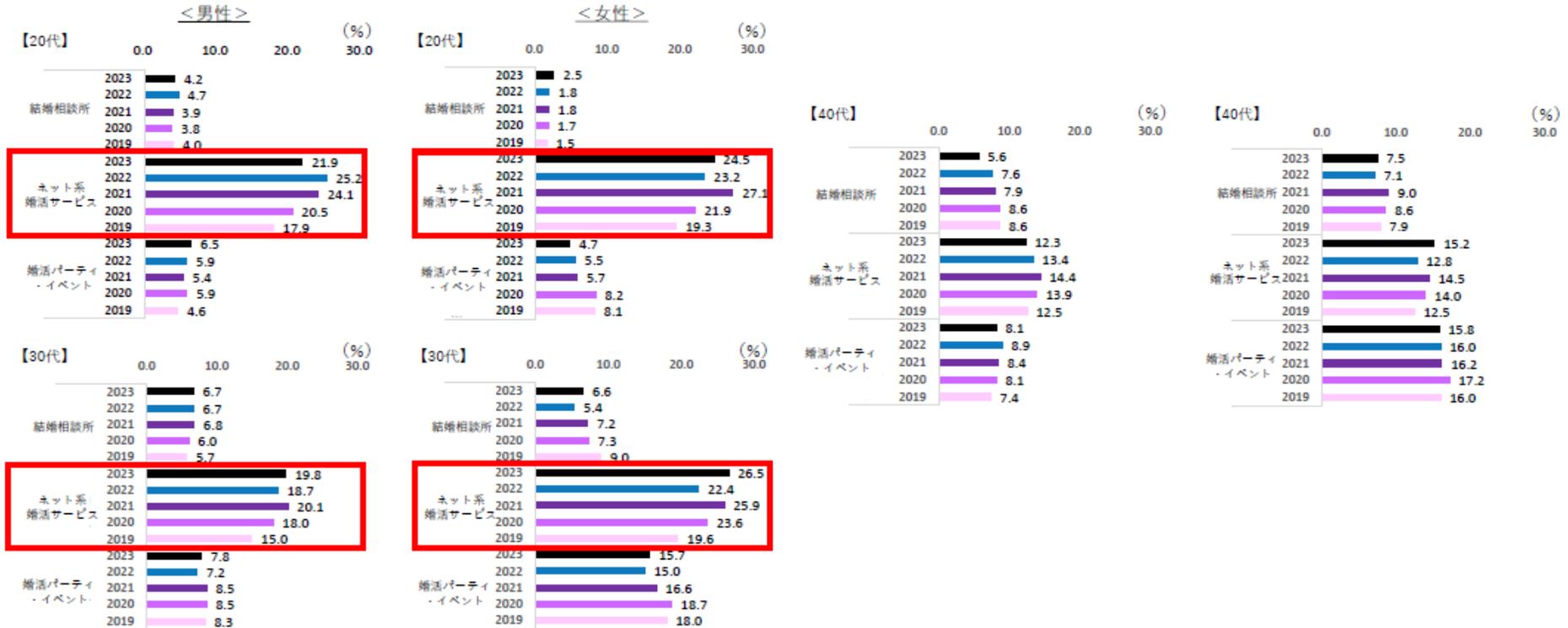


# (1) 婚活・結婚支援サービス業界の動向 ②

- 利用経験のある婚活サービスは、20代・30代においてはネット系婚活サービスの割合が男女ともに高くなっている。(複数回答)

■ 各婚活サービスの利用経験割合【性年代別】

(1次調査/恋愛もしくは結婚意向がある恋人のいない独身者/複数回答)



- 婚活・恋人探しの活動内容をみると、都市規模に関わらず、「友人・知人の紹介」や「婚活イベント」などのほか、「マッチングアプリ」の利用も活発。

## 現在の婚活・恋人探しの活動内容

(複数回答) (%)

		n=	友人・知人に紹介を頼む	マッチングアプリ	合コン、街コン、婚活パーティーなどの出会いを目的としたイベント	職場の同僚や先輩に紹介を頼む	サークル活動、習い事、資格取得のための学校	SNS やオンラインサービス	家族や親戚の紹介/ お見合い	民間の結婚支援事業を利用する	地方自治体やNPOなどの団体の結婚支援事業を利用する	その他	行っていない
未婚者 TOTAL	合計	1370	25.1	24.7	17.6	10.5	6.2	5.8	5.3	4.2	2.9	0.2	52.3
	政令都市在住	461	24.3	24.1	17.6	10.8	5.6	7.2	4.1	4.3	1.5	0.2	52.7
	中核都市在住	454	25.8	24.7	18.7	10.6	5.7	5.9	7.3	3.3	3.7	0.4	54.0
	地方部在住	455	25.3	25.3	16.5	10.1	7.3	4.4	4.4	4.8	3.5	0.0	50.1
未婚者・ 男性	合計	687	29.5	29.4	21.4	14.0	7.9	7.9	6.4	5.5	3.8	0.1	46.0
	政令都市在住	229	29.3	31.9	21.0	15.7	7.9	10.9	4.4	5.2	2.6	0.0	43.7
	中核都市在住	229	30.6	28.4	24.0	14.8	7.4	6.1	9.2	5.7	5.7	0.4	47.6
	地方部在住	229	28.8	27.9	19.2	11.4	8.3	6.6	5.7	5.7	3.1	0.0	46.7
未婚者・ 女性	合計	683	20.6	19.9	13.8	7.0	4.5	3.8	4.1	2.8	2.0	0.3	58.6
	政令都市在住	232	19.4	16.4	14.2	6.0	3.4	3.4	3.9	3.4	0.4	0.4	61.6
	中核都市在住	225	20.9	20.9	13.3	6.2	4.0	5.8	5.3	0.9	1.8	0.4	60.4
	地方部在住	226	21.7	22.6	13.7	8.8	6.2	2.2	3.1	4.0	4.0	0.0	53.5

- 2020年のオンライン恋活・婚活マッチングサービス市場は、前年比約2割増の622億円。2028年には2020年比1.38倍の860億円に達する見込み。

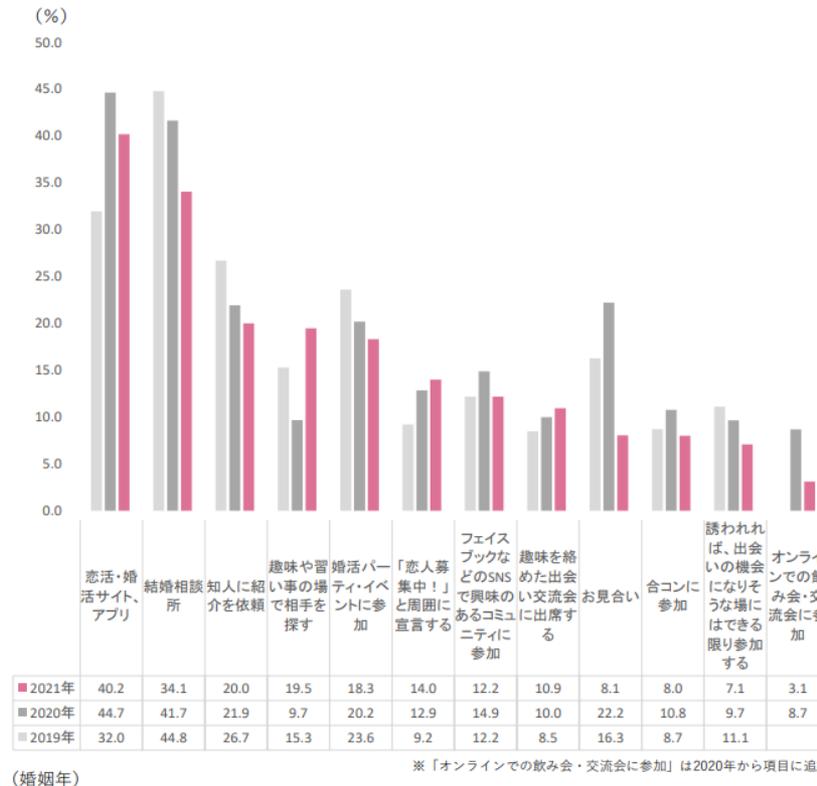
### 国内オンライン恋活・婚活マッチングサービスの市場予測



### (3) 民間の婚活支援サービスの状況

- 結婚した人の婚活支援サービスの利用状況をみると、コロナ禍もあってか、婚活サイト・アプリの利用割合が増えている。具体的な割合は、婚活サイト・アプリ（40.2%）、相談所（34.1%）、お見合い（8.1%）、知人に紹介を依頼（20.0%）、婚活パーティ・イベント（18.3%）。

#### 民間の婚活支援サービスの利用状況



リクルートブライダル総研『婚活実態調査2023』「実施（利用）した婚活によって、結婚した人の割合（1次調査／各年に結婚した人のうち、各婚活を実施（利用）した既婚者／各項目単一回答）」

### ①結婚相談所

- 婚活・結婚支援サービスは、「利用までの流れ」、「サービス内容」、「料金」などで「店舗型相談所」、「オンライン型相談所」、「オンラインサービス」に大別される。それぞれに違った特徴があり、個人の希望にあったサービスをよく考えて選ぶことが重要。
- 結婚相談所は、結婚を希望する独身の会員に対して、結婚を前提とした出会いを支援するサービス。利用するには本人確認書類に加え、独身証明書や年収証明書などを求める事業者が多い。

(事業者・団体により異なる。上記は一般的な例示)



## (4) 婚活・結婚支援サービス別の特徴

### ②オンラインサービス（婚活サイト・マッチングアプリ等）

- オンラインサービスは20代～30代の利用者が多く、恋愛や結婚対象となるパートナーとの出会いを気軽に見つけられるサービス。
- 利用料金が定額制のところが多く、比較的安価で気軽に始められる。
- 最近は、オンラインサービスであっても、独身証明書の提出を求めたり、専用のカウンセラーが支援したりするなど、利用者の真剣度に応じて、様々なサービスを提供するケースも。

(事業者・団体により異なる。上記は一般的な例示)



### ③地域の結婚支援センターによる結婚支援サービス

- 地域の結婚支援センター等が提供するサービス内容を明記

パートナーを見つけるための活動をオンラインでサポートするサービスでは、オンラインで気軽にパートナーを探せる一方、本人確認の徹底が難しいことから、本来の利用方法ではない目的で近づいてくる人物とマッチングしてしまうこともある。

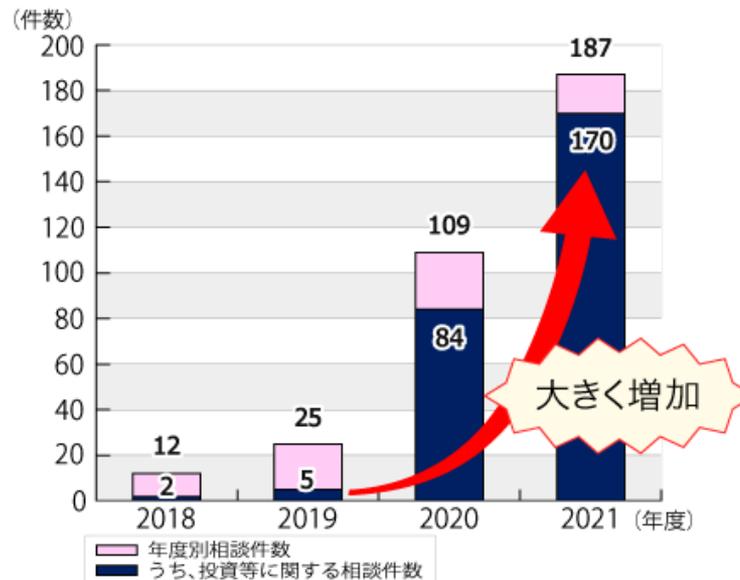
悪質な事例は続いており、利用者にとっても注意が必要である。

### 相談事例から見える問題点

- メッセージのやり取りだけでは本人確認が難しい
- 紹介された投資サイト等が架空
- 個人情報悪用される可能性がある

- パートナーを見つけるための活動をオンラインでサポートするサービスでは、オンラインで気軽にパートナーを探せる一方、本人確認の徹底が難しいことから、本来の利用方法ではない目的で近づいてくる人物とマッチングしてしまうこともある。

### 出会い系サイトやマッチングアプリ等に関する年度別相談件数



年度別相談件数：2018年度は12件（うち投資等に関する相談は2件）、2019年度は25件（うち投資等に関する相談は5件）、2020年度は109件（うち投資等に関する相談は84件）、2021年度は12月31日までに187件（うち投資等に関する相談は170件）です。

（注）国民生活センター越境消費者センター（CCJ）で2018年4月1日から2021年12月31日までに受け付けた相談。

独立行政法人国民生活センター 2022年3月3日発表情報より

「図. CCJにみる、出会い系サイトやマッチングアプリ等に関する年度別相談件数」

※CCJ：Cross-border Consumer center Japanの略。

## Check !

利用者に対するアドバイスとして

- 出会い系サイトやマッチングアプリ等の規約をよく読んでから利用すること
- 投資等の話でうまいもうけ話には安易に応じないこと
- 個人情報を安易に提供しないこと